

令和6年度  
福祉文教委員会  
行政視察報告書

- 期 日  
令和6年5月20日（月）～5月23日（木）
- 視察先及び調査事項  
兵庫県小野市
  - ・小中一貫教育について
  - ・校務支援システムについて富山県南砺市
  - ・チーム担任制について京都府八幡市
  - ・やわたスマートウェルネスシティ計画について
- 出張者  
委員長 三好和彦 副委員長 城戸力  
委員 越智由美子 委員 西坂壽  
委員 坪井剛 委員 藤田節雄  
委員 伊藤孝司  
随行職員 伊藤加寿也

# 特 定 調 査 事 項

## 兵庫県小野市

- 小中一貫教育について
  - 1 小野市型小中一貫教育の概要について
  - 2 導入に至った経緯について
  - 3 導入による効果について
  - 4 現在の課題及び今後の取組について
  
- 校務支援システムについて
  - 1 概要について
  - 2 導入に至った経緯について
  - 3 導入による効果について
  - 4 現在の課題及び今後の取組について

# 兵庫県小野市

R6. 5. 20 (月)



## 「おの夢と希望の教育・おの検定」

令和6年5月20日(月)  
兵庫県小野市教育委員会

1 小野市の基本理念「国際社会の中でたくましく活躍できる心豊かで自立した人づくり」  
・ 少子高齢化・人口減少社会、グローバル化、高度情報化、食料・資源問題などの急激な社会情勢の変化の中で、未来を切り拓く原動力は人づくり、すなわち教育である。

### 2 脳科学に基づく教育

東北大学教授 川島隆太氏が、平成17年10月、小野市教育行政顧問に就任。「脳の司令塔」である「前頭前野を鍛える」ことは、「生きる力」を育み、こころの教育につながると提唱。H29年12月から「夢と希望をかなえる脳科学 Short Seminar」配信。

- 前頭前野のはたらき(知徳) ⇨ やる気・行動を抑制する力、感情のコントロール
- 前頭前野を鍛える方法 ⇨ 読み・書き・計算、音読、コミュニケーション
- 前頭前野が成長する時期 ⇨ 3歳までと10歳から(10歳の壁)

### 3 重点施策Ⅰ

#### おの検定

(H16年度～) 小中学校統一の独自検定 市民検定も実施。

- 基礎学力を定着させ、豊かな心を育む学習システム 漢字・計算・英語
- 「おの検定」 ⇨ 小中一貫教育、主体的な学び、家庭学習の習慣化
- 「おの検定(体力)」 ⇨ 縄跳び運動で基礎体力を向上、継続した運動習慣の確立

### 4 重要施策Ⅱ

#### 小中一貫教育

(H16～小中連携教育 H28～市内全校区小中一貫教育校へ)

- 9か年の学びのつながりを大切にした教育
- 脳の発達の時期(10歳の壁に着目)と学習内容の高度化に対応
- 小学校高学年の教科担任制 ⇨ 学力向上と自立に向けた社会性の育成
- 河合中学校区 ⇨ 小学校6年生が中学校校舎へ登校し学習を開始(H27年度～)
- 各中学校区 ⇨ 実態と特色を活かした共通の教育目標、一貫したカリキュラム作成

#### 16か年教育

(H17年度～) マイナス1歳から15歳までを対象

- 市長部局と連携し、脳科学の知見に基づく子育ての啓発
- 家庭教育を支援 ⇨ 基本的な生活習慣の確立、「生きる力」の基礎の育成を目的
- パパマヨシ教室 ○7か月児教室 ○子育て支援教室 …年間1500人以上受講

### 5 重要施策Ⅲ

#### 小野市型学力向上

自主的な公開授業の実施→教員の授業力向上

- 授業改革 ⇨ 活用・探求型の学力向上、小野市型GIGA school projectの推進
- 理数教育の充実 ⇨ 科学的思考力、態度を育む理数教育、理数探究特別授業
- 外国語活動の推進 ⇨ 小学1年生から実施、全小中学校へALTの配置

#### 教育環境の整備

- 行政と議会の理解によって、小野市の教育が進んでいます。
- 前例踏襲を改め、学校と教育委員会の新しい関係
- 全教室に空調設備完備(H23年度) 新学習指導要領実施に対応
- 全校生1人1台タブレットの完全配備(R3年度) 市内全校にWifi完備

# 特 定 調 査 事 項

## 富山県南砺市

- チーム担任制について
  - 1 概要について
  - 2 導入に至った経緯について
  - 3 導入による効果について
  - 4 現在の課題及び今後の取組について

# 富山県南砺市

R6. 5. 21 (火)



愛媛県  
西条市議会  
福祉文教委員 様



ゆるキャラ『カブちゃん』

令和6年5月21日  
南砺市教育委員会

—令和の教育改革からみる—

「チーム担任制」の取組

令和6年5月21日



南砺市教育委員会



# 1 : チーム担任制 採用の経緯

## 教育長「2019年(平成31年4月)」 就任→学校を回る

① 今、なぜ「教育改革」か？ “戦後74年間の『当たり前』を見直す”

### <問題状況>

1. 学校のブラック企業化 (残業が当たり前)
2. 子供減少によるはずみ (部活・複式)
3. 先生の若返りによる教育力低下
4. 「親育て」の必要性増大

### <南砺市のよさ>

1. 校務支援システム設置
2. 保・幼一小一中 一貫教育の推進
3. エアコン完備
4. 合併15年
5. 協力的地域 (小規模多機能自治)
6. オープンスペース・複式の教育資源の蓄積

夏・冬休みは必要か

先生も計画的に休んだら

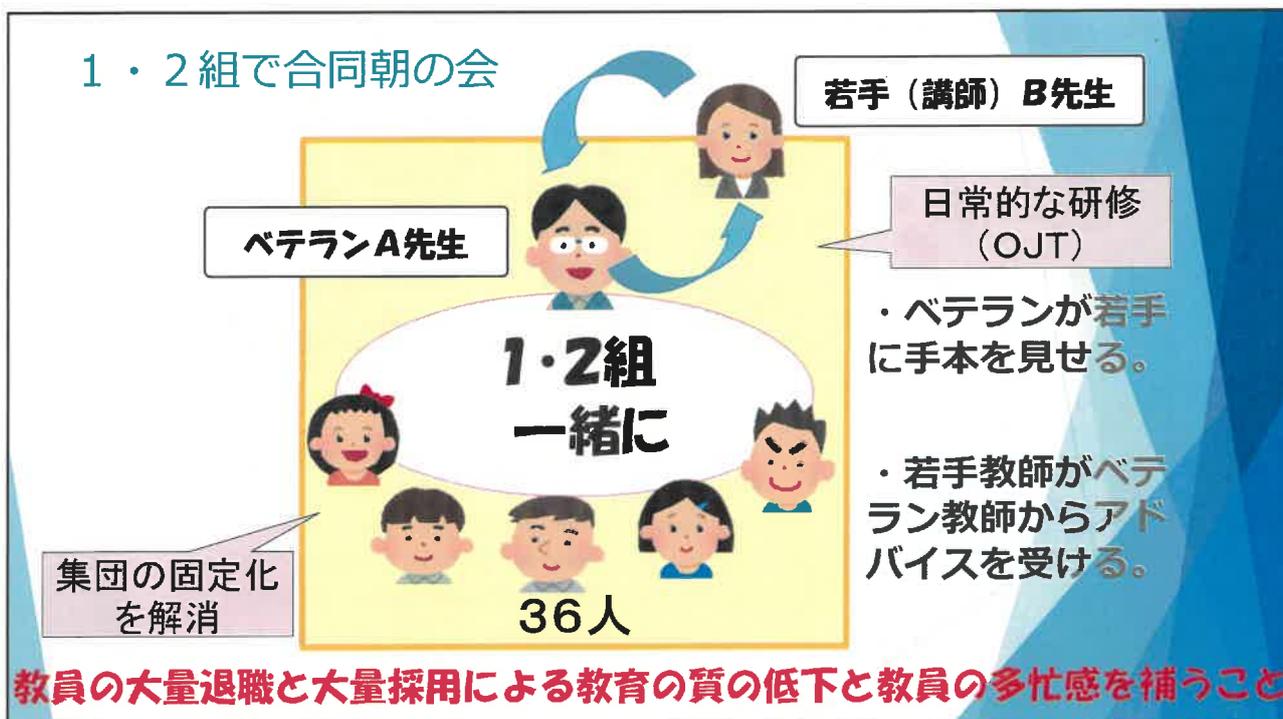
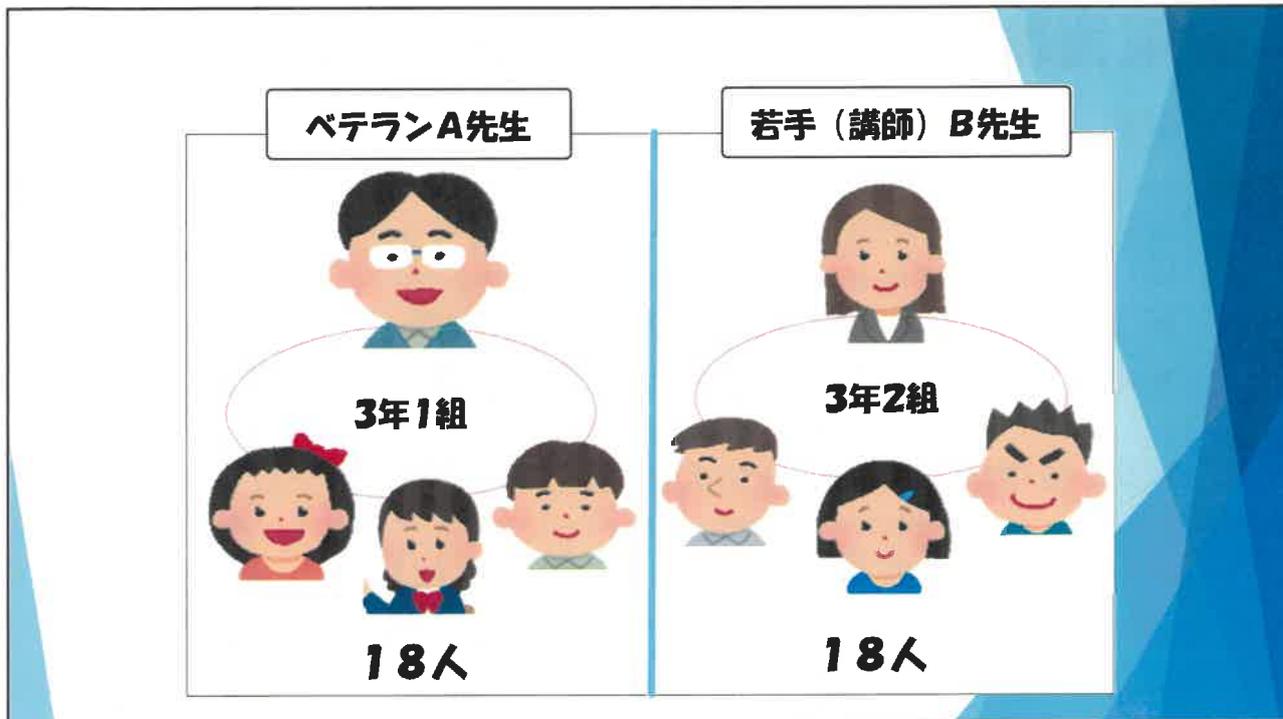
もっと「家庭教育」を重視しては

もっと「社会教育」を重視しては

1学級1担任制をやめたら

学校の独自性 助長

- ・夏休み9日、冬休み6日のみ
- ・6限目の廃止 (子供の下校: 小:15時半 中:17時半) (毎日の閉校: 小:17時半 中:18時半)
- ・5~2月、全員有休5日間まとめて取り
- ・複数担任制により、子供への影響軽減
- ・その間、無担任が1週間ずつ仮担任に
- ・家庭教育のために子供が学校を休むことが当たり前できるように (部活の全国大会等出場のためも同様)
- ・部活数削減(クラブチーム?)
- ⇒指導(市職員、会社員 1H分)
- ・部活による他校入学認可
- ・教員の複数顧問 (卒業まで生活面の指導; 第2担任)
- ・夕方の児童生徒の活動支援 (小規模多機能・企業・行政)
- ・単級の小学校……1・2年、3・4年、5・6年生・回・音・体・家・総: 合同学習
- ・複数クラス……学年: 合同学習
- ・学級固定化の解消、中学校: 学年体制
- ・教科担任+学級担任による授業も常時可能! ~OJTの日常的实施~
- ・教員の時差出勤
- ・テスト、保護者会など 各校の裁量で!!!! ⇒1学期制?



# 政策実施に向けて (チーム担任制の場合)

- ▶ 1 教育部職員への意見聴取・**改善**
  - ▶ ①教育総務課 ②こども課 ③生涯学習スポーツ課
- ▶ 2 校長会での説明、**改善・共通理解** (5, 6, 7月)
  - ▶ その間、個別の学校の問題点への対応 (個別に学校を回る)
- ▶ 3 市PTA連合役員会での説明、**共通理解** (9月)
- ▶ 4 教頭会・教務主任会への説明、**改善・共通理解** (12月)
  - ▶ \* 説明用DVDの配布 (チーム担任制の目的・実施方法例などを示す)
- ▶ 5 各学校ごとの研修会の設定、**共通理解** (1~2月)
  - ▶ \* 各学校で、何をするかを頭出し
- ▶ 6 各家庭への案内の配布、**共通理解** (3月)
- ▶ 7 出来ることから、学校ごとに**実践・改善** (4月~)
  - ▶ \* 新採・他市町村からの転入者への合同研修会の設定 (3月末)

## 「チーム担任制」の開始について

本市では、令和2年度からすべての市内小中学校において、従来の「1学級1担任制」を異にし、複数の教員が学年全体や2つの学年を指導・支援する「チーム担任制」を導入いたします。以下のような例が考えられますが、具体的な取組は各学校において校長の指導のもと、家庭に示して柔軟に実施されます。

**例** **小学校 単級・複式学級の場合**  
複式学級、1年生・2年生・3年生

これまで学校ごと

一人ひとりの児童生徒に対して、個別の指導の仕方を考えることが必要です。  
 6年間ずっと同じメンバーで過ごすといった、定型的な指導は難しくなります。

これからは学年全体も

3・4年生と一緒に

※ 主に、生活科、道徳科、図工科、体育科、音楽科、外国語、学芸活動、給食の給食等での実施が可能になります。

**小学校 学年複数学級の場合**  
1年生・2年生・3年生

これまで学校ごと

個別の指導の仕方を考えることにより、どの学年や学年の異なる指導が難しくなります。

これからは学年全体も

学年全体で

＜例＞指導の導入部分を学年全体で、活動は学年の学年で実施します。

※ 主に、道徳科、学芸活動、給食の給食等での実施が可能になります。

**中学校 単級学級の場合**  
1年生・2年生・3年生

これまで学校ごと

多様な習性や個性を育みながら育てることが必要です。個別の指導の仕方を考えることで、一人一人の個性を育て、指導・支援することが必要です。

これからは学年全体も

1・2・3年生と一緒に

※ 主に、道徳科、学芸活動、給食の給食等での実施が可能になります。

**中学校 学年複数学級の場合**  
1年生・2年生・3年生

これまで学校ごと

一人一人の児童生徒に対して、個別の指導の仕方を考えることが必要です。  
 チームで一人一人の児童生徒を育て、個別の指導・支援が必要になります。

これからは学年全体も

＜例＞道徳科、学芸活動等学年の全員が受けを行います。

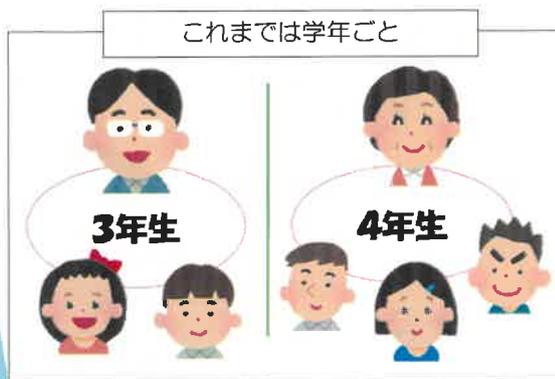
※ 主に、道徳科、学芸活動、給食の給食等での実施が可能になります。

- ★ 教員がチームになり、一人一人の子供を複数の教員で指導・支援する学校体制をつくります。
- ★ 各教員のよさを生かすことで、**質の高い授業**を提供します。
- ★ 「チーム担任制」導入にともなって、**教員の勤務体制**も変わってきます。  
 例えば、中学校では、「2時間目から出勤し、部活動終了時」までを勤務時間とする「階層出勤」も取り入れていきます。このことは、残業を減らす**教員の「働き方改革」**にもつながります。
- ★ 各学校で、校長を中心に具体的な取組の内容を検討し、**できることから始めます。**

## 2 : チーム担任制とは、どんな制度？

### 【小学校の場合】

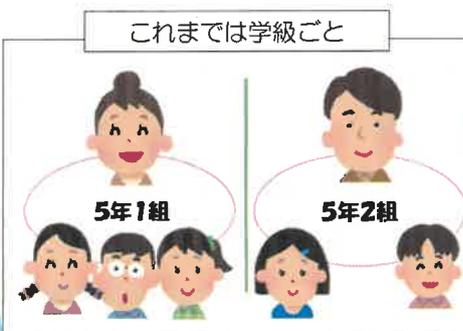
#### 《単級・複式学級の学校》



※主に、生活科、音楽科、図画工作科、  
体育科、道徳科、外国語、学級活動、  
朝や帰りの会等で実施

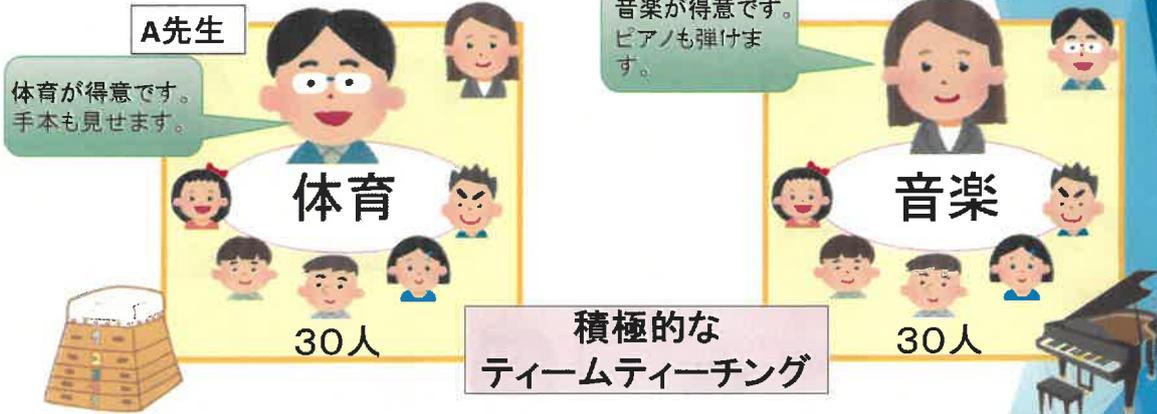
### 【小学校の場合】

#### 《学年複数学級の学校》



※主に、生活科、音楽科、図画工作科、  
体育科、道徳科、外国語、学級活動、  
朝や帰りの会等で実施

## 取組例（体育科、音楽科）



### ○合同で体育

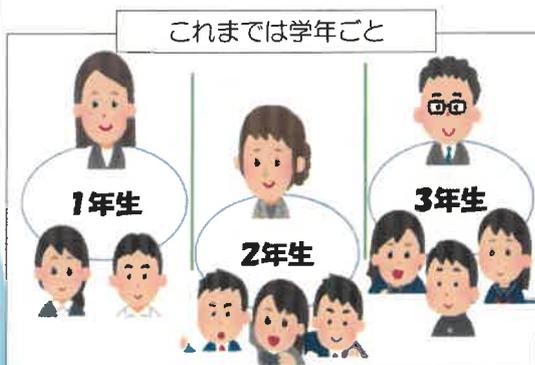
- ・運動が得意な若手教師がT1。
- ・手本を見せる。子供とともに活動する。

### ○合同で音楽

- ・ベテラン教師による質の高い授業。
- ・若手教師の学びの場。

## 【中学校の場合】

《単級・複式学級の学校》



※主に、道徳科、学級活動、朝や帰りの会、給食指導、生活ノートを活用した指導、教育相談等実施

【中学校の場合】  
 ≪学年複数学級の学校≫



学年教員がチーム



※主に、道徳科、学級活動、朝や帰りの会、給食指導、生活ノートを活用した指導、教育相談等実施

【中学校の場合②】

≪1学年3学級のF中学校の1年生の例≫

担任ローテーションの進め方<1年基本パターン>

	1年1組			1年2組			1年3組		
	朝の会	給食	帰りの会	朝の会	給食	帰りの会	朝の会	給食	帰りの会
月	1-1担任	1-3担任	1-1担任	1-2担任	1-1担任	1-2担任	1-3担任	1-2担任	1-3担任
火	学年主任	1-1担任	学年主任	1-1担任	1-2担任	1-3担任	副担任	学年主任	副担任
水	1-2担任	学年主任	1-3担任	1-1担任	副担任	1-1担任	学年主任	1-3担任	1-2担任
木	1-3担任	副担任	1-2担任	学年主任	1-3担任	副担任	1-2担任	1-1担任	学年主任
金	副担任	1-2担任	1-1担任	1-3担任	学年主任	1-2担任	1-1担任	副担任	1-3担任

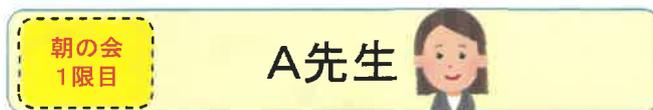
**木曜日の朝にフリーの時間ができる！！**

## 想定される効果

中学校では・・・

8:15出勤

16:45退勤



2限目出勤

18:00退勤

↓  
B先生、は2限から出勤  
部活が終わるまで勤務

**「時差出勤」  
が可能**

- 時間外勤務時間を解消する
- 一人の子供をみんな(チーム)で見る

## 3 : チーム担任制の成果

【成果】 子供にとって



《単級の小学校》



- ・ 上の学年を手本にして学ぶことができる。
- ・ 下の学年の手本になろうと努力する。
- ・ 多様な友達の意見に触れることができる。
- ・ 合奏、ゲームが充実する。

【成果】 子供にとって 

《学年複数の小学校》



- ・ 担任以外と触れ合うことができる。
- ・ 多様な意見に触れる機会ができた。
- ・ 個別に指導してもらえる機会が増えた。
- ・ 担任が出張等で不在でも自習ばかりにならない。

【成果】 教員にとって 

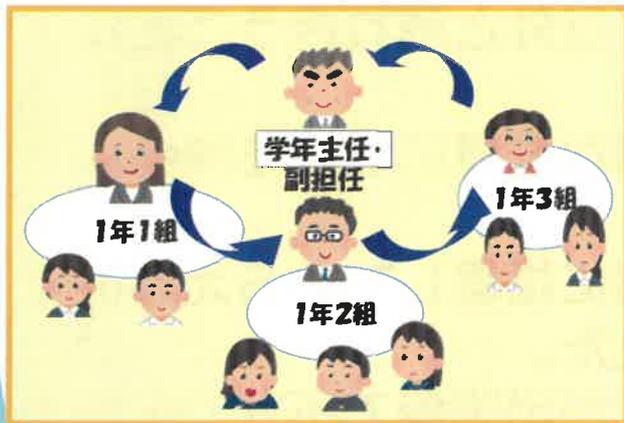
《単級の小学校》



日常的なOJTで  
質の高い教育

- ・ 先輩教員の指導法を学ぶことができる。
- ・ 子供の見方が広がる。
- ・ 気軽に相談できる関係ができる。
- ・ 一人で抱え込まない。
- ・ 教材研究、教材作成の時間が減る。
- ・ 用具の準備、児童の指導等の役割分担をすることで、時間の無駄がなくなった。

【成果】 子供にとって  
《学年複数学級の中学校》



- ・どの教室でもルールが統一されており、不公平感がない。
- ・担任以外と触れ合うことができる。
- よさを認めてもらうチャンスが増える。

【成果】 教員にとって  
《学年複数学級の中学校》

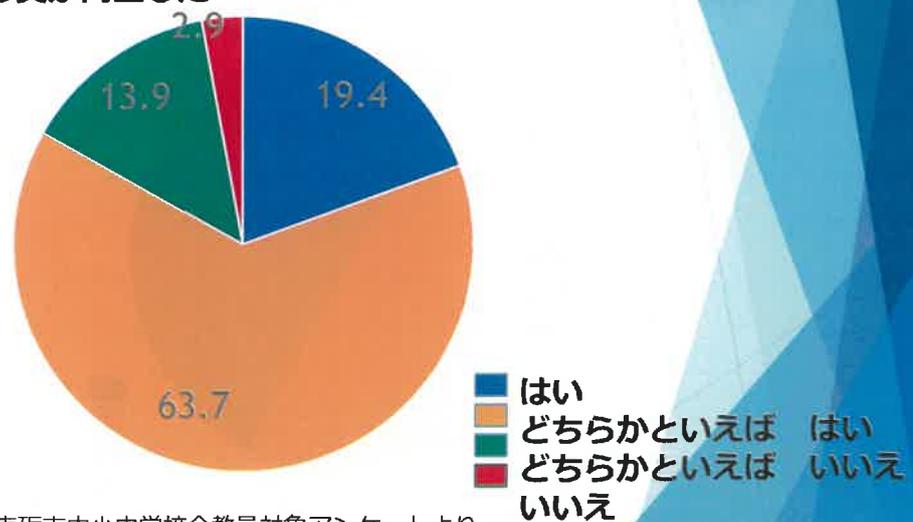


- ・他の学級の子供の実態を把握することができる。
  - ・同じ題材の授業を繰り返すことで、授業の質を高めることができる。
- (道徳科)

【成果】 その他（自由記述から）

- ・ 同学年の先生方や学習支援の先生方と子供たちのことや学習、生活等の指導の仕方について、日常的に話し合えたのはよかった。
- ・ 若手教員は多くのことをベテラン教員から学んでおり、若手を育てるという意味で効果的である。また、若手からICTの効果的活用が広まっているという効果もある。
- ・ 各学校の状況や実態に応じて可能なところから取り組むというスタンスが大事である。

【成果】 アンケート結果より  
子供の学びの質が向上した



令和3年2月実施 南砺市内小中学校全教員対象アンケートより

## 子供の学びの質が向上した

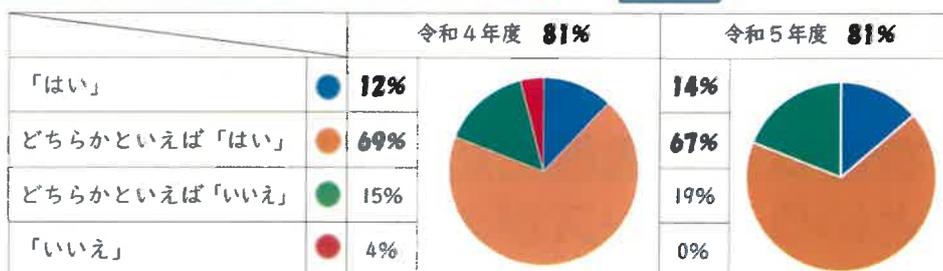
### 小学校・義務教育学校（前期課程）アンケート結果

+1

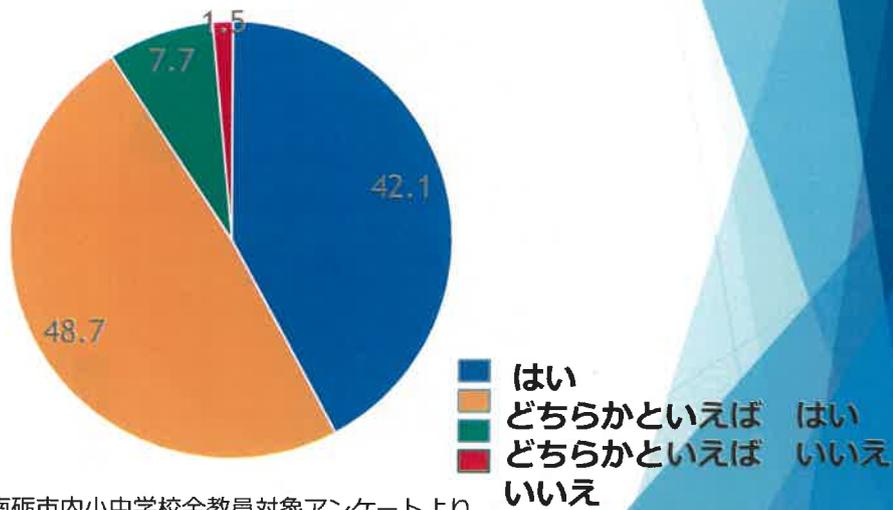


### 中学校・義務教育学校（後期課程）アンケート結果

±0



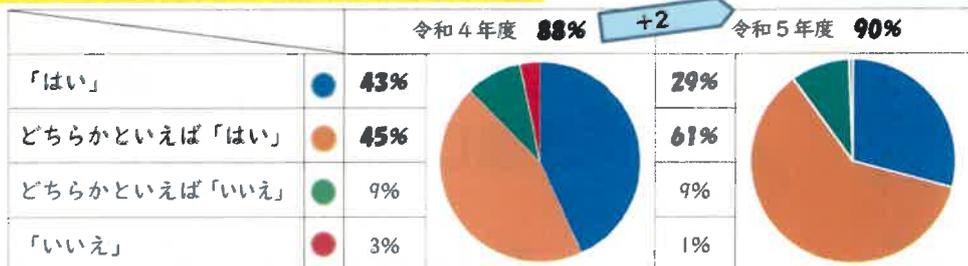
【成果】 アンケート結果より  
授業以外にも、子供にとって効果的な場面があった



令和3年2月実施 南砺市内小中学校全教員対象アンケートより

## 授業以外でも、子供にとって効果的な場面があった

### 小学校・義務教育学校（前期課程）アンケート結果



### 中学校・義務教育学校（後期課程）アンケート結果



## 4：チーム担任制の課題

【課題】

《単級の小学校》



- ・ 場所によっては、十分なスペースを確保できない。
- ・ 数に限りがある用具を使う活動の場合は、工夫が必要。

【課題】

《単級の小学校》



・ 担当者が日毎に変わることによって、「落ち着かない」と感じる子供が出てくる。

・ 配慮を必要とする子供の中には、大人数での活動が苦手な子供もいる。

・ 時間割作成が大変である。

【課題】

《学年複数学級の中学校》



・ 情報共有をしておかないと、不信感につながる。

・ 道徳等の評価に工夫がいる。(行動の変容を捉える等)

・ 担任の所属感が低下し、一体感を作りにくい。(体育大会や合唱コンクール等)

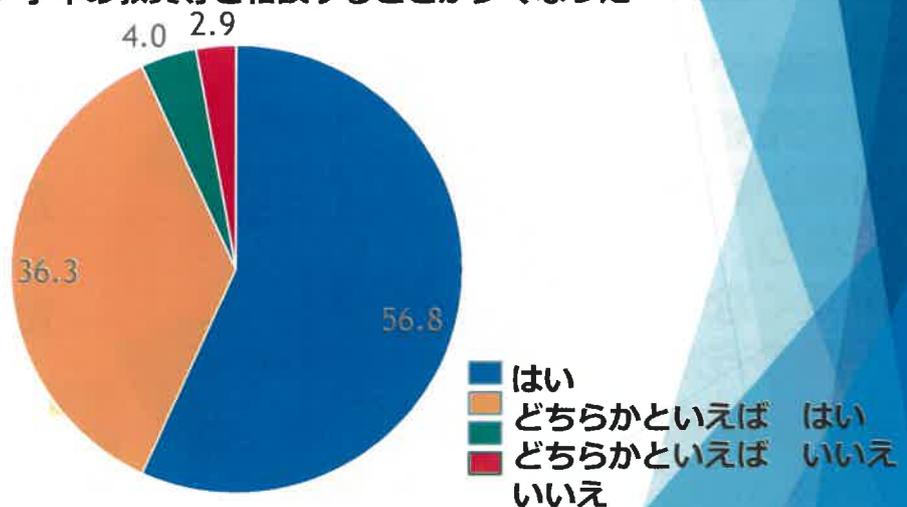
・ 学年主任の負担の増加。

【課題】 その他（自由記述から）

- ・ チーム担任制には大きな可能性があることを前提としながらも、ベテランが出過ぎることで、若手の成長の機会を奪ってはいけないと感じた。
- ・ 教科、指導内容、子供の実態によって取り入れるかどうかを判断したらよいと思う。
- ・ 学年の誰かがやってくれるだろうとってしまうことが考えられるため、責任の所在を明らかにしておくことが大切である。

【課題】 アンケート結果より

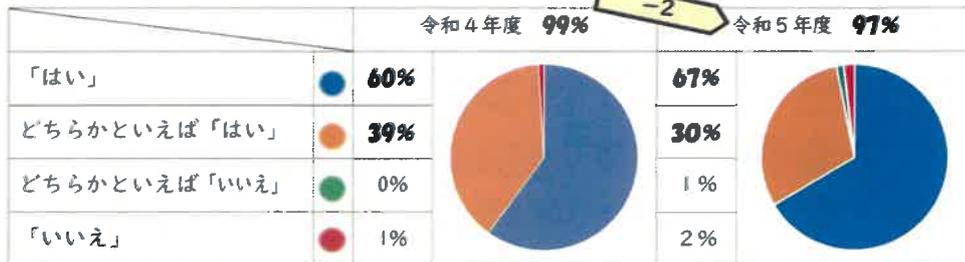
同学年、ペア学年の教員等と相談することが多くなった



令和3年2月実施 南砺市内小中学校全教員対象アンケートより

## 同学年、ペア学年の教員等と相談することが多くなった

### 小学校・義務教育学校（前期課程）アンケート結果

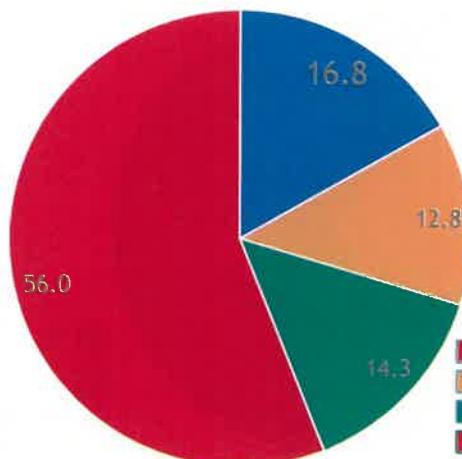


### 中学校・義務教育学校（後期課程）アンケート結果



## 【課題】 アンケート結果より 時差出勤を取ることができた

△授業の準備  
や校務処理の  
時間が放課後  
になり、帰りが遅くなる。  
△朝の方が仕事  
がはかどる。



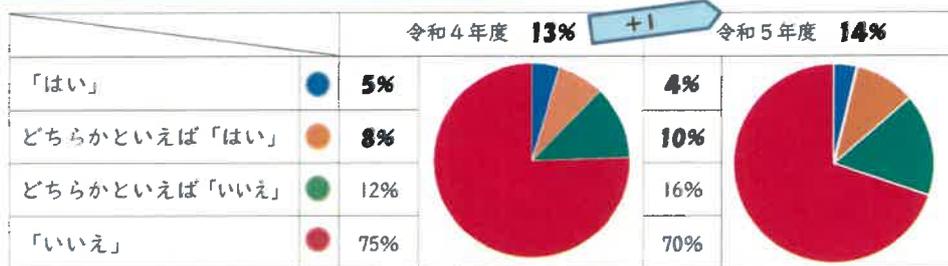
○朝、子供を保育園へおくる  
ことができよ  
かった。  
○ゆとりができた。

令和3年2月実施 南砺市内小中学校全教員対象アンケートより

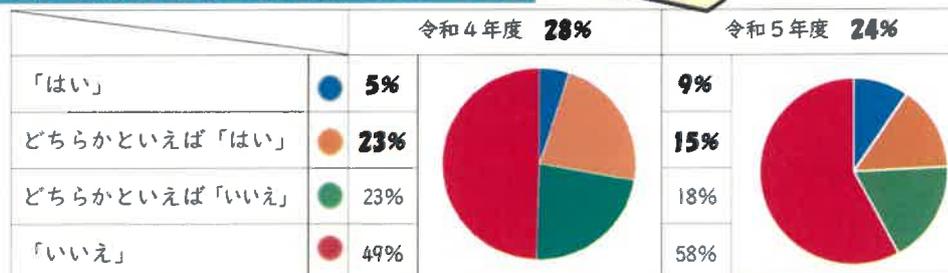
■ はい  
■ どちらかといえば はい  
■ どちらかといえば いいえ  
■ いいえ

## 時差出勤を取ることができた

### 小学校・義務教育学校（前期課程）アンケート結果

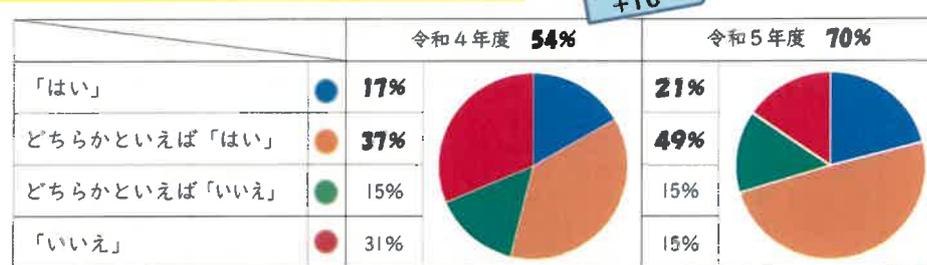


### 中学校・義務教育学校（後期課程）アンケート結果

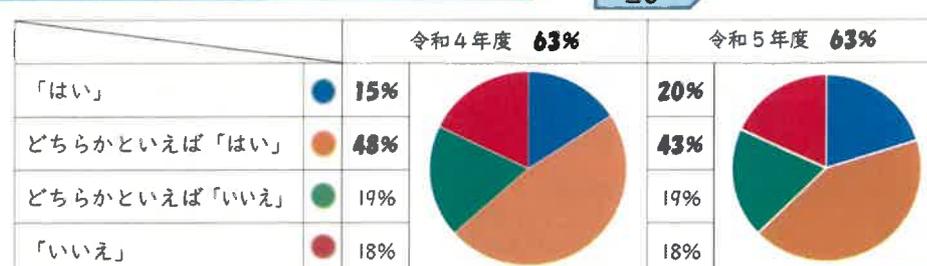


## 休暇を取りやすくなった

### 小学校・義務教育学校（前期課程）アンケート結果



### 中学校・義務教育学校（後期課程）アンケート結果



# 5 : 成果と課題を生かすために

## 成果と課題を生かすために

### 【中学校 学年総学習連絡】「朝の会・帰りの会」について

多岐から集まった経験者および関係者の方々とともに、「チーム総務」の成果と課題及び学習をまとめてみました。  
以下の内容は「朝の会」の経験と学習をもとに、各学年において実践方法を共有した「チーム総務」の成果と課題についてまとめてみました。

観点	方法	成果(◎生徒○教師)	▲課題 ⇒ ●方策
朝の会 (帰りの会)	学年合同朝の会	○学年主任や中堅教員が学年全体で話をする機会を多くすることで、経験が少ない教員が学べる機会を増やした。 ○学年スタッフ全員で生徒を見守ることができる。	▲学年主任や中堅教員の負担が大きい。 ●徐々に経験が少ない先生方が話す機会を増やす。ローテーションを組んで対応できないか検討する。
給食	学年担当教員がローテーションを組んで給食指導	○配膳や片付けの仕方等給食指導の内容について統一し、4月当初に学年で共通理解しておくことで、指導の徹底を図ることができる。 ○学年担当教員全員が全学級の様子を把握することができる。	▲食物アレルギーの生徒への対応を間違えないための負担が大きい。 ●養護教諭・栄養教諭から除去食等の情報を確実に学年に伝える。また、情報共有をしっかりと行い、学年担当教員全員が理解する。

### 【朝の会・帰りの会・給食】

多岐から集まった経験者および関係者の方々とともに、「チーム総務」の成果と課題及び学習をまとめてみました。  
以下の内容は「朝の会」の経験と学習をもとに、各学年において実践方法を共有した「チーム総務」の成果と課題についてまとめてみました。

観点	方法	成果(◎生徒○教師)	▲課題 ⇒ ●方策
朝の会 (帰りの会)	学年合同朝の会	○学年主任や中堅教員が学年全体で話をする機会を多くすることで、経験が少ない教員が学べる機会を増やした。 ○学年スタッフ全員で生徒を見守ることができる。	▲学年主任や中堅教員の負担が大きい。 ●徐々に経験が少ない先生方が話す機会を増やす。ローテーションを組んで対応できないか検討する。
給食	学年担当教員がローテーションを組んで給食指導	○配膳や片付けの仕方等給食指導の内容について統一し、4月当初に学年で共通理解しておくことで、指導の徹底を図ることができる。 ○学年担当教員全員が全学級の様子を把握することができる。	▲食物アレルギーの生徒への対応を間違えないための負担が大きい。 ●養護教諭・栄養教諭から除去食等の情報を確実に学年に伝える。また、情報共有をしっかりと行い、学年担当教員全員が理解する。

観点	方法	成果(◎生徒○教師)	▲課題 ⇒ ●方策
朝の会 (帰りの会)	学年合同朝の会	○学年主任や中堅教員が学年全体で話をする機会を多くすることで、経験が少ない教員が学べる機会を増やした。 ○学年スタッフ全員で生徒を見守ることができる。	▲学年主任や中堅教員の負担が大きい。 ●徐々に経験が少ない先生方が話す機会を増やす。ローテーションを組んで対応できないか検討する。
	学年担当の教員がローテーションを組んで、朝の会、「生活の記録」点検、給食、帰りの会を日替わりで実施	○学年スタッフ全員で生徒を見守り、複数の教員の目で生徒を指導することができる。 ○だれが、いつ、どの学級を担当しても大丈夫であるように日報を毎日出すことが有効であった。 ○別室登校の生徒には、適応指導員の先生方にも支援してもらい助かった。日報を渡すことで学年の動きも理解してもらえる。	▲生徒の情報や提出物等の連絡や報告が不十分だと、生徒や保護者の信頼を失うことがある。 ●ホワイトボードに連絡事項を書き込み、各学年で情報共有を徹底する。 ▲不登校傾向や心配な生徒への対応。 ●情報共有をしっかりと行い、担任が中心に情報をまとめ対応する。 ▲毎日の日報は負担でもある。 ●報告内容や形式を精選していく。
	Forms で健康観察を実施(Excelでまとめた結果を学年担当全員が把握)	○各々が確認することで、日々の生徒の変化や心身に不調を感じている生徒に素早く気づき、共有し、対応を検討することができる。	→全体の前後では、言いにくいことも、入力して伝えられることで、担任はもちろん学年チーム全員で心身の健康状況を把握し対応できる。
給食	学年担当教員がローテーションを組んで給食指導	○配膳や片付けの仕方等給食指導の内容について統一し、4月当初に学年で共通理解しておくことで、指導の徹底を図ることができる。 ○学年担当教員全員が全学級の様子を把握することができる。	▲食物アレルギーの生徒への対応を間違えないための負担が大きい。 ●養護教諭・栄養教諭から除去食等の情報を確実に学年に伝える。また、情報共有をしっかりと行い、学年担当教員全員が理解する。

# 南砺市内小・中・義務教育学校における「チーム担任制」について

令和6年度 令和6年度  
南砺市教育委員会  
南砺市教育センター

本市では、令和2年度より全ての市内小・中・義務教育学校において、従来の「1学年1担任制」を見直し、複数の教員が学年全体や複数の学年を指導・支援する「チーム担任制」を導入しています。具体的な取組は各学校において校長の指導のもと、実態に応じて柔軟に実施されています。

### 例 <小学校 単級・複式学校の場合>

◎人数が増えることで、多様な専攻にふれることができます。  
◎6年間ずっと同じメンバーで過ごすといった、生涯学習の環境化を図ることができます。

◎人数が増えることで、多様な専攻にふれることができます。  
◎6年間ずっと同じメンバーで過ごすといった、生涯学習の環境化を図ることができます。

2学年合同で、各教科の得意な教員が中心となって指導します

2学年合同で行うことで、各教科の得意な教員のチームが日常的に可能になります。

3・4年生 一緒に

### <小学校 学年複数学校の場合>

◎複数の教員が協力して指導することにより、どの学年でも質の高い授業を実施できます。  
◎生徒指導上の課題や子供たちの相談にも、複数の教員がチームで対応します。

学年全体の指導と各学年での指導を組み合わせます

例1: 学年全体で

例2: 学年別で

### <中学校 単級学校の場合>

◎多様な考えを聞き合う場をつくることができます。  
◎複数の教員の多様な見方で、一人一人の心の内面を捉えて、指導・支援することができます。

学年の教員がチームで指導します

例: 国・英・道徳科等を、学年の教員が交代で行います。

### <中学校 学年複数学校の場合>

◎一人一人の状況や変化に対して、複数の教員が多様な見方で受け止め、対応することができます。  
◎チームで一人一人の子供を見て、協力して指導・支援にあたることができます。

学年の教員がチームで指導します

例: 国・英・道徳科等を、学年の教員が交代で行います。

**チーム力を生かし 質の高い教育を目指します**

- ★ 教員がチームになり、一人一人の子供を複数の教員で指導・支援する学校体制をつくります。
- ★ 学年チームの教員が得意な教科を担当するなど、各教員のよさを生かすことで、質の高い授業を提供します。
- ★ 「チーム担任制」による指導によって、教員が互いに指導技術を学ぶ場となり、教育力の向上につながります。
- ★ 「時差出勤」を取り入れるなど教員の勤務体制の改善や、「働き方改革」につなげます。
- ★ 各学校で、校長を中心に具体的な取組の内容を検討し、工夫して取り組んでいます。

※ 主に、生涯科、音楽科、図画工作科、体育科、道徳科、外国語科、学級活動、朝や夕の会等において実施されています。

## チーム担任制を生徒指導・生活指導に生かす

### <保護者対応>

- ・チームで、対応を考える
- ・電話ではなく、足を運んで Face to Face(顔を見て)
- ・話される内容を聞きながら、書かれている内容を読みながら 伝えたくった心に共感する → まずは、落ち替えてもらう

**保護者**

- ・信頼できる先生だ
- ・安心して相談してみよう

### 多くの目で見守り・チームで対応

- ・多くの目で多面的・多角的に捉える
- ・新しい視点で考えてみる(ベテランの経験、若手の感覚)

**具体的には**

- ・連絡帳の確認をチーム内で交代する
- ・児童・生徒の言動や変化は、すぐに話題にする(感情、言葉遣い、忘れ物など)
- ・OJT研修を行い、対応の仕方をみんなで考えるなど

対応は 最早く!      よいことも 話題に!!

### <児童・生徒対応>

- ・結果だけでなく、児童・生徒の思いを考える
- ・なぜ、そんなことを仕えるのか
- ・なぜ、そのような態度なのか(心配 不安 さびしさなど)
- ・一人で対応せずチームで対応を考える

**児童・生徒**

- ・どの先生でも大丈夫
- ・先生に話してみよう

### よりよい対応の流れ

#### 1 2本のアンテナで 事実と思いを受けとめる

1 言葉通りの事実  
2 直接来てまで、電話してまで、文字にしてまで 伝えたい思い(心配・不安な気持ち)

#### 2 まずは、事実より 思いを共感的に受けとめる

・保護者や児童・生徒が先生に分かってもらえたという 安心・安堵できる状況づくりを 優先 する

#### 3 事実確認は 寄り添いながら行う

・相手に寄り添っていることを 前面に出しながら、対応する

**例**

保護者が事情確認に 来校された時

1 事実から考えると 明日の〇〇時間の持ち物のことを 言っておられるんだな。 本番過ぎうのに、 ちゃんとおもひに言ったのに。

2 思いを共感すると 自分の子供をもっと見てほしいと 思っておられるんだな。 本音が、 本当の思いなんだな。

(事実優先の対応) 伝えました。他の子に聞 いてもらってもいいです。X

3 思い優先の対応をする そうだね。私も同じ状況 だったら心配になります。 明日持って行かないと お子さんが困られますものね。O

4 ああ、気持ち が 分かってもらえて よかった。

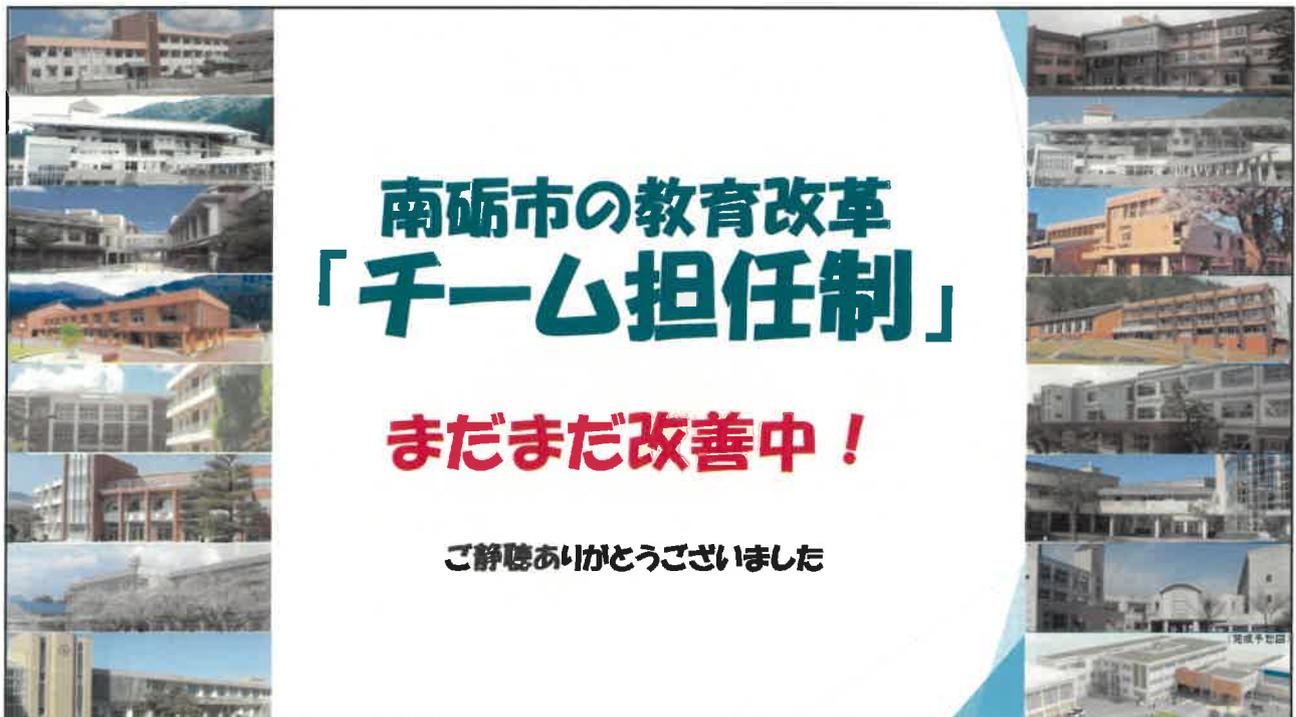
5 連絡帳に書くように伝え、言葉 でも書いたら分かってもらえた。 私の確認が足りませんでした。 心配をおかけし、申し訳あり ませんでした。

## 成果

▶ H31-R4 新規採用教員 56名、  
▶ R5 12名、  
計68名

▶ R6-3現在 退職者 5名 病気休職0名  
▶ ※退職者2名は、結婚退職（3年勤務）  
▶ ※退職者3名は、進路再考のため

**※採用1年以内での退職者 0名**



南砺市の教育改革  
「チーム担任制」  
まだまだ改善中！  
ご静聴ありがとうございました

# 特 定 調 査 事 項

## 京都府八幡市

- やわたスマートウェルネスシティ計画について
  - 1 概要について
  - 2 計画策定に至った経緯について
  - 3 進捗状況について
  - 4 期待される効果について
  - 5 現在の課題及び今後の取組について

# 京都府八幡市

R6. 5. 22 (水)



# 西条市議会福祉文教委員会様 行政視察資料

1



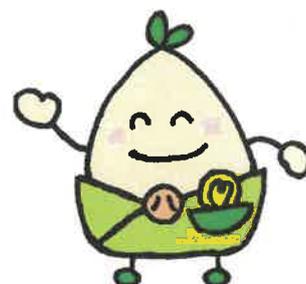
国宝「石清水八幡宮」

やわた  
京都府八幡市役所  
健康福祉部健康推進課

## アジェンダ

2

1. 計画策定に至るまでの過程について
2. やわたスマートウェルネスシティ計画の概要について
3. 個々の政策について
4. 医療費・介護給付費の抑制効果分析について



# アジェンダ

## 1. 計画策定に至るまでの過程について

2. やわたスマートウェルネスシティ計画の概要について

3. 個々の政策について

4. 医療費・介護給付費の抑制効果分析について



## 八幡市ってどんなところ…？



●人口 68,969人(令和6年3月末時点)

●高齢化率 31.9%(令和6年3月末時点)

●面積 24.35km<sup>2</sup>

→最大幅は東西約6.7km、南北約8.5kmで、コンパクトなまち

・大阪府との府境に位置し、京都・大阪の中心部にはそれぞれ電車で30分ほどと**アクセス良**

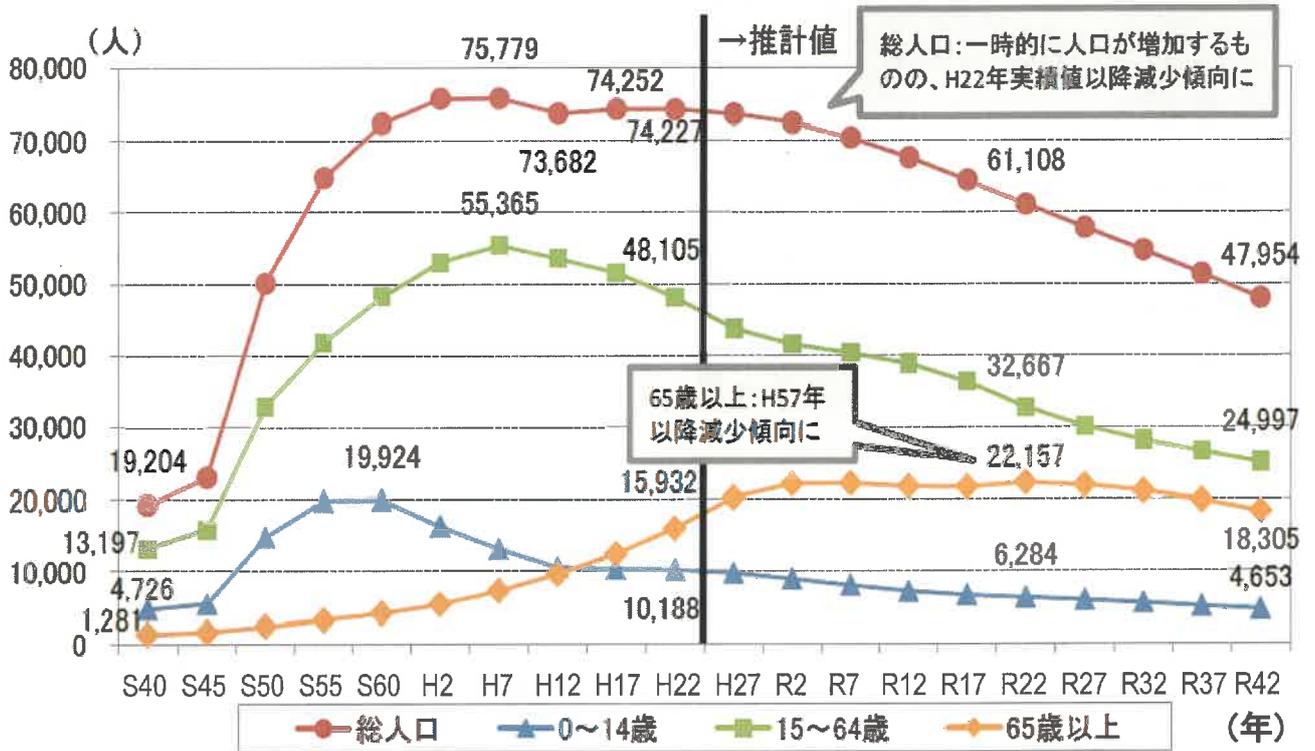
・昭和40年代後半の、**日本住宅公団(現:UR)**の大規模開発を主因に、全国屈指の人口急増

・京都市や大阪市の**ベッドタウン**として発展

・昭和52年11月1日に市政施行

・人口は平成7年の約76,000人をピークに、減少に転じている

# 八幡市の人口減少・少子高齢化の状況

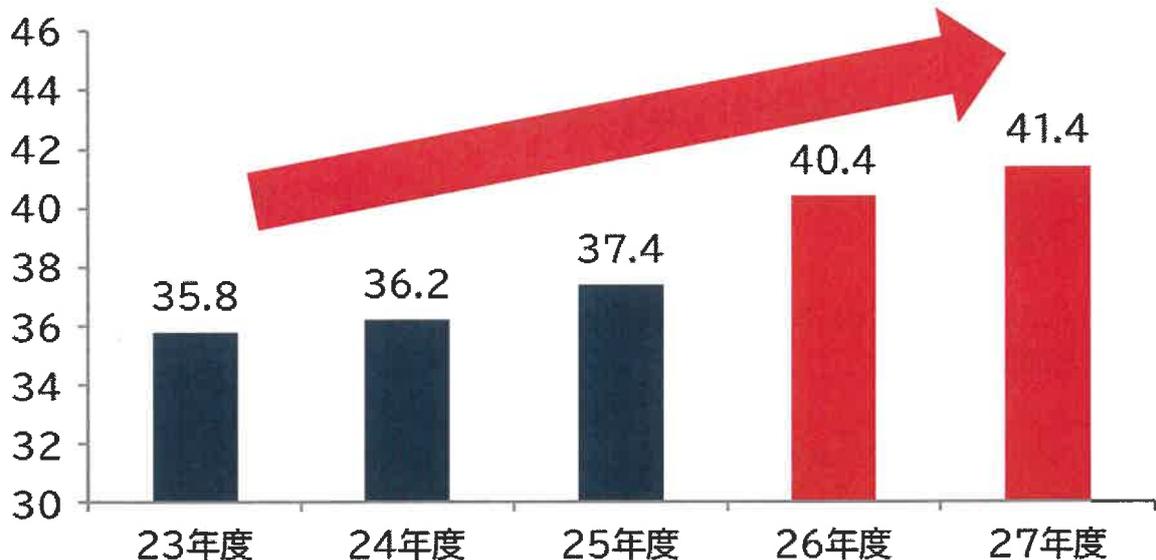


出典:八幡市人口ビジョン(H28)

# 医療費にかかる状況

## 八幡市の1人当たり医療費 (国保40-74歳)

単位:万円



出典:健康クラウドデータより

→ 国民健康保険加入者1人あたりの医療費は右肩上がりの状況

# SWC首長研究会への加盟

7



少子高齢化社会がもたらす社会保障費の増大等の課題解決に向けて、健幸まちづくりの推進を掲げて活動する**首長研究会**の存在を知る

→ **平成25年10月**に  
SWC首長研究会に加盟

## Smart Wellness City



出典: Smart Wellness City Project ホームページ

- ・平成27年度時点で、八幡市は**健康増進計画未策定**
- ・SWC首長研究会での学びを踏まえて、当時全国的にも事例のなかった**都市政策を含めた健康増進計画**を策定することに
- ・平成28年度に計画の前段階として「**やわたSWC構想**」を策定し、平成29年度に計画を策定するスケジュール

# SWC首長研究会加盟とは…

8

- ・筑波大学大学院の**久野譜也**教授が中心となり、少子高齢化社会がもたらす社会保障費の増大等の課題解決に向けた新たな都市モデル「**Smart Wellness City**」の構築に向けて、国の動向や先進事例などの研究やモデル事業を実施している
- ・同研究会は平成21年に発足し、本市は平成25年に加盟。
- ・年に2回の研究会が毎年開催されており、令和6年5月の開催で30回を数える
- ・令和6年4月時点で**43**都道府県**130**市区町村が加盟しており、鳥取県内においては、**湯梨浜町**が加盟
- ・本市においては、同協議会での先行事例を踏まえた取組や、協議会の枠組みを生かした取組を複数実施している

### 例①やわた未来いきいき健幸プロジェクト(**健幸ポイント事業**)

→同協議会に加盟する複数自治体で実施された大規模実証事業をベースに事業を設計。また、事業実施にあたっては、同協議会に加盟する4つの自治体と連携し、地方創生推進交付金(現:デジタル田園都市国家構想交付金)を申請、採択される。

### 例②ママもまんなかプロジェクト(**妊産婦向け事業**)

→同協議会の発起人である久野譜也教授が、内閣府SIPのひとつ「包摂的コミュニティプラットフォームの構築」のプロジェクトリーダーに任命されたことを受けて、妊産婦の健康状態の改善と子育てに寛容な社会の実現に向けて、妊産婦向けの教室実施や大規模なアンケート調査を実施する。

8

# アジェンダ

1. 計画策定に至るまでの過程について

2. やわたスマートウェルネスシティ計画の概要について

3. 個々の政策について

4. 医療費・介護給付費の抑制効果分析について



## 計画策定にかかるアンケート調査

計画内で設定する目標値をはじめとする現状把握や、計画策定の基礎資料とするために、**住民アンケート**を実施

### ●調査の概要

調査対象者 : 20歳から74歳までの市民(5,000名)

対象者選定 : 無作為抽出法による

調査項目 : ①健康状態に関すること  
 ②生活習慣・運動習慣・食習慣に関すること  
 ③健康情報に対する考え方に関すること  
 ④住んでいる地域や地域での活動に関すること  
 ⑤公共交通や歩けるまちづくりに関すること  
 ⑥市の健幸づくり施策に関すること 等

調査方法 : 郵送調査、回答はアンケート用紙を返送

回答率 : 33.4% (1,672名)

「健康」に関する様々な設問に加えて、住んでいる地域に関することや、理想的なまちについての考え方、社会活動への参加状況、普段の意識や暮らし方など多岐にわたる項目について調査を実施



# やわたSWC構想・計画の策定①

11

八幡市が健幸まちづくり(SWC)を推進していくための指針として、健康増進計画や食育推進計画を包含する「**やわたSWC計画**」を平成30年3月に策定



出典：やわたスマートウェルネスシティ計画(平成30年3月)から抜粋

# なぜ都市計画を含む必要があるのか

12

約7割を占める「**健康無関心層**」の行動を変えることが、社会保障費増加などの社会的課題を解決するためには必要

健康無関心層の行動変容を促す健康づくり事業は存在するが、行動変容につながる対象者の範囲は限定的である

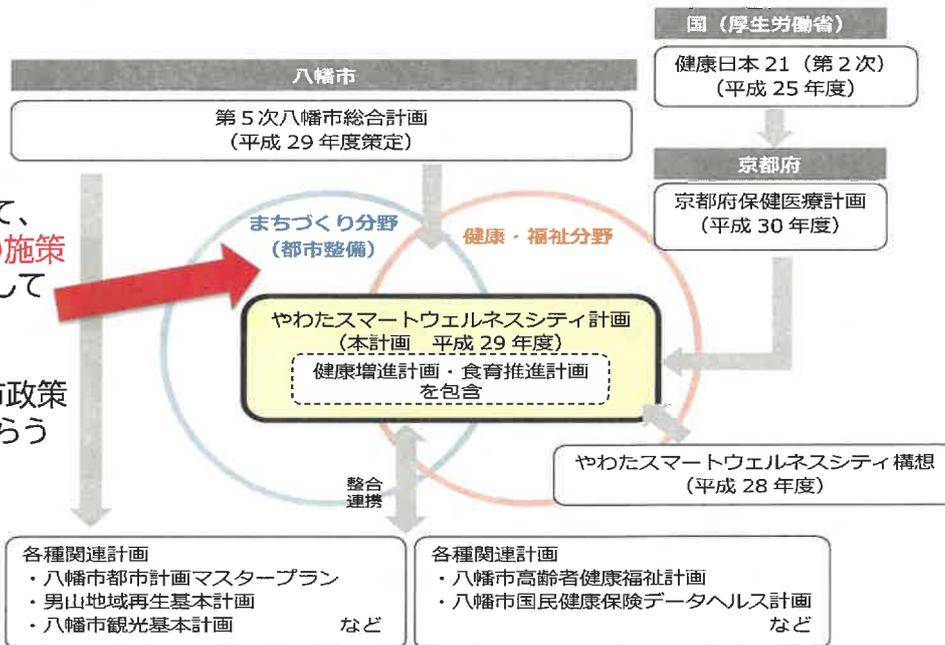
**まちづくり**(歩道の整備、公共交通の充実、人が集う空間づくり等)は、健康無関心層を、**健康に関心がないまま健康にすることが**できる可能性を秘めている

# やわたSWC構想・計画の策定②

・健やかで幸せに暮らすことができる“八幡市”となるには、長期的な視点において、**健康無関心層へのアプローチ**が必要不可欠  
 ・今までの健康づくりにはなかった、「**新たな切り口**」から健康を捉えることで、結果として政策・アプローチ方法の幅が広がる

## POINT

- ・住民の健幸を広義で捉えて、**都市環境や公共交通などの施策も健幸まちづくりの取組として記載**
- ・計画の策定段階から、都市政策部門にかかわりを持ってもらうことで、「SWC」の考え方が広く浸透



出典：やわたスマートウェルネスシティ計画(平成30年3月)から抜粋

# やわたSWC構想・計画の策定③

前例の少ない**健康増進計画に都市政策を包含**した事例として、国土交通省の「健康まちづくり事例集」にも掲載

## 京都府八幡市：健康増進計画に都市施策を包含した事例

### 都市施策部門と健康施策部門の連携のプロセス

①双方の課題意識を活かす  
 ・八幡市では、高齢化に伴う以下の課題を有していた。とくに社会保障費の高騰に危機感を抱いた健康施策部門が都市施策部門と連携した総合施策型の健康づくりが有益であると考えた。そして、「健幸」を積極的につくり、社会保障費等を抑制する施策の財源確保の必要性を訴えた。

●健康施策部門の課題意識  
 ・高齢化の進展に伴う民生費、とくに社会保障費の増大に危機感。

●都市施策部門の課題意識  
 ・高齢化に伴い、古い団地などの既存インフラの再生やバス路線等の見直しなどが課題。

②連携先の課題・事業・計画・インフラ等を知る  
 ・計画策定のため、産官学連携の「やわたスマートウェルネスシティ推進協議会」(後述)などの協議組織等をつくり、連携先等における課題や事業、計画、インフラ等を把握した。

③エビデンスを集める・活かす  
 ・関係者と課題や施策の方向性を共有するため、市内各地区の医療費の実態や健康課題の原因分析等を行う「健幸SWC-AI」を活用して可視化(下図参照)した。

・分析の結果、地区間で歩行や社会参加などに差が見られ、医療費に影響していることが分かった。

「健幸SWC-AI」は、医療費分析等の作業を委託する健康政策コンサルティング会社が提供するサービスで、国保、介護保険、後期高齢者医療制度などから必要なデータを集め、医療費や健診結果、疾病の発生数などを匿名化した上、ライフスタイル、都市インフラを含む健康関連指標を体系的に分析するもの。市全体あるいは地区ごとの健康課題、解決のための施策とその効果を検証することができる。

④部局を超えた調整機能を持つセクター等の存在  
 ●課題や方向性等を明確にする産官学連携の「やわたスマートウェルネスシティ推進協議会」  
 ・健康施策部門はまず、庁内健康づくり連絡会議への都市施策部門の参画を要請した。

一方、「スマートウェルネスシティやわた」を進める土台となる計画の策定に向け、大学、地域団体、民間事業者(フィットネスジム、薬局、農業会社、公共交通、住環境等)、市民からなる産官学連携による「やわたスマートウェルネスシティ推進協議会」も平成28年度に設置した。

実態や課題、分析結果、施策の方向性などについて、参加機関で共有している。

### ⑤施策ゴール・コンセプトの明確化・共有を図る

●「人に対する健康づくり」に、歩行環境や公共交通の整備など「まちの健康づくり」の観点を加えた  
 ・従来の「人に対する健康づくり」に、歩行環境や公共交通の整備などから健康づくりを考える「まちの健康づくり」の観点を加え、総合的なまちづくり、「健康づくり」に取り組む新たな都市モデル「スマートウェルネスシティ」を推進することにした。

・健康施策部門では当時、保健指導や運動教室などの実施が取り組みの中心で、健康増進計画の策定や目標値の設定なども行われていなかったが、積極的に「健康まちづくり」を推進する方針に舵を切った。それによって、都市施策部門等との連携、同部門のインフラ等の健康づくりとの関係性などについて検討・考慮されるようになった。

### ⑥行政計画への位置づけ・KPI等の共有

「やわたスマートウェルネスシティ計画」は、平成28年度の「八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」のプロジェクトの一つである健康都市創生「やわたスマートウェルネスシティプロジェクト」に位置づけられ、健康づくりのみならず、総合的なまちづくりにより、健康寿命の延伸や医療費削減を目指すものとされ、成果指標としては、以下のようものが設定されている。

【健康施策部門】  
 「運動習慣がある人の割合」「ヘルシラテラーの多い人の割合」「地域にネットワークのある人の割合」など

【都市施策部門】  
 「居住地周辺の歩行・運動環境が良いと思う人の割合」「ひと月の外出頻度」「コミュニティバスの利用者数」など

これとは別に総合計画にも別途、KPIが明記されている。

・健康施策部門では、健康無関心層のまっかかげりとして、都市インフラや自然を活用した「健幸イベントまちウォーク」「勇山まちウォークスタンプラリー」「流れ橋ふれあいウォーク」「八幡再発見勇山一周歴史ウォーク」「高齢者歩数診断ウォーキング」などを実施。

・「やわたスマートウェルネスシティ計画」が策定されたことによって、「互いに声をかけやすい関係性が構築できた」と市職員は話している。

### ⑦周知(取組の認知度・利用促進)

・取組の認知度を高めるため、健康情報を届けるインフルエンサー「健幸アンバサダー」を養成し、活用している。

「健康情報を届ける仕組みが必要」

「市の事業PRにも積極的に活用」

「総合計画のサブタイトルに「スマートウェルネスシティ」と明記されたこともあり、関係部署における認知度が高まった。また、施策実施にかかる予算についても、確保できるようになった。議会においても「スマートウェルネスシティ」関連の質問が多数出るようになってきた。

出典：国土交通省「健康まちづくりの事例集」より

# 健幸まちづくりは市の総合計画でも…

市の総合計画のサブタイトルは、  
「Smart Wellness City, Smart Welcoming City」

6つの基本目標の一つは、「誰もが健康で幸せな**“健幸のまち やわた”**」とし、単に運動や食に関する記載だけでなく、地域コミュニティの充実・移動手段の確保・公園の整備・歩きたくなるまちづくり等について記載



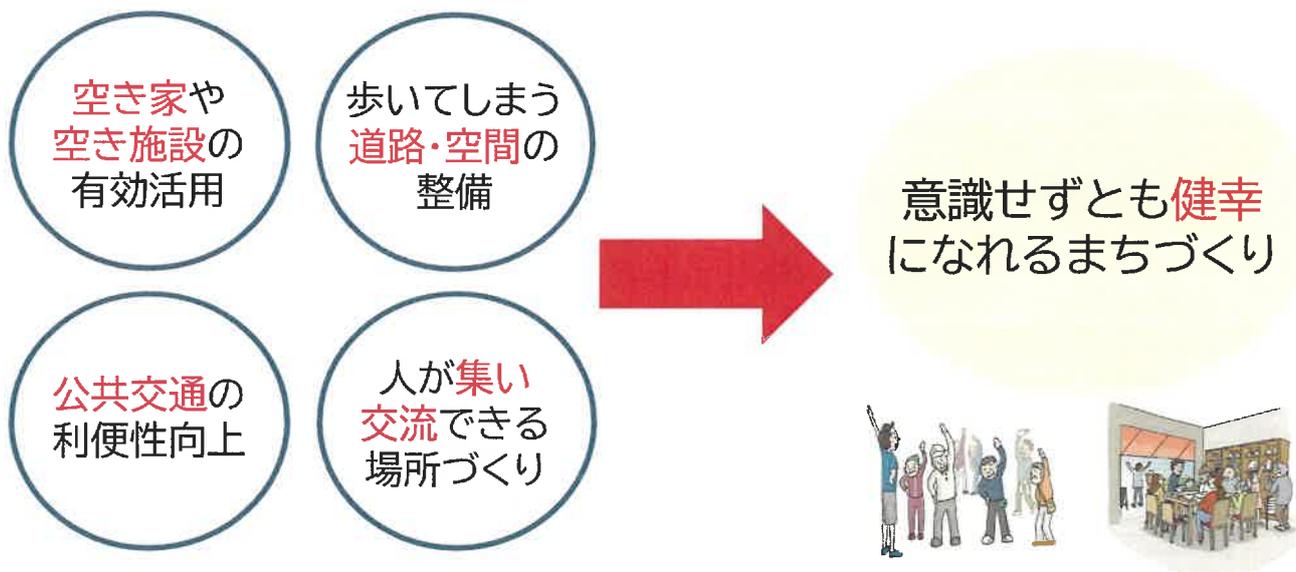
みんなで創って好きになる 健やかで心豊かに暮らせるまち  
～住んでよし、訪れてよし  
Smart Wellness City, Smart Welcoming City Yawata～



出典：八幡市第5次総合計画より抜粋

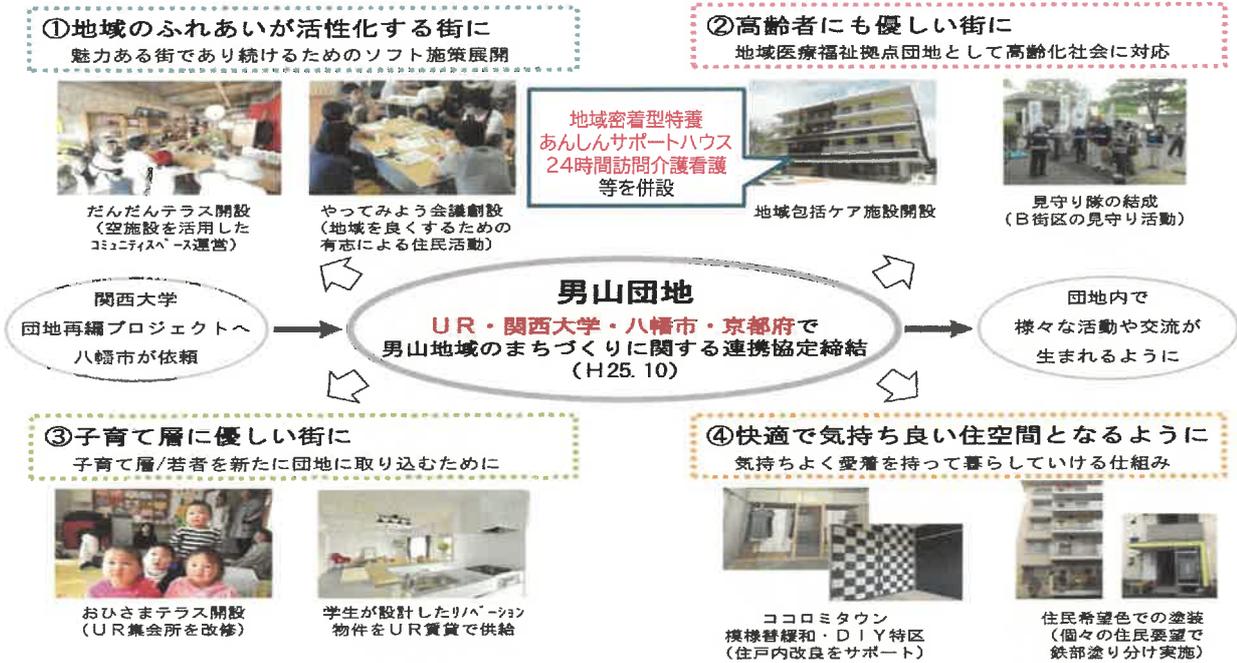
# 今後の課題（“まちの健幸づくり”の推進）

- ・“まちの健幸づくり”の推進には**時間**を要する
- ・“健康無関心層”の行動を変えていくためには、“まちの健幸づくり”の推進が必要
- ・健幸ポイント事業など「ソフト」事業はうまく進めてこれたが、健幸まちづくりはここからが勝負



# 今後の課題(“まちの健幸づくり”の推進)

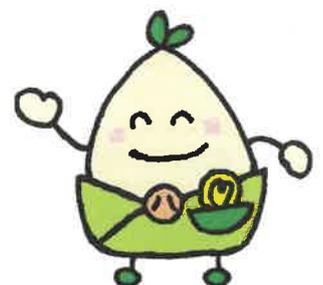
- ・人口の約3割が住む“**男山地域**”においては、居住者の**高齢化**が進んでいる
- ・市・京都府・UR・関西大学での連携協定を締結、“まちの健幸づくり”推進の下地あり



出典:平成28年(2016)やわたスマートウエルネスシティ推進協議会 プレゼン資料より

# アジェンダ

1. 計画策定に至るまでの過程について
2. やわたスマートウエルネスシティ計画の概要について
3. 個々の政策について



# ① やわた未来いきいき健幸プロジェクト 19

歩くことを中心とした健康づくり活動に対して  
**ポイント**を付与する**インセンティブ事業**



現在、約**4,800人**が参加しており、八幡市の成人人口の**8.2%**に相当

## 基本的な仕組みについて 20

参加者には専用の**活動量計**または**スマホアプリ**で歩数を測定し、定期的に**計測データの送信**を行う



測る

送る

貯まる

・専用の活動量計またはアプリで日々の歩数を計測  
・定期的に体組成計で身体の変化をチェック

・活動量計の場合は、市内の公共施設に設置する送信機またはLoppi端末でデータを定期的に送信

・歩いた歩数や、データの送信行為、健診受診等に対してポイントを付与

# 事業の特徴について

## 事業の特徴

- ・健幸無関心層を含む多数の市民が参加できるインセンティブ事業として、先行事例のエビデンスに基づく健幸ポイント事業として令和元年度からスタート
- ・ICTを活用した健幸ポイント導入のネックとなっていた予算は、“SIB”の採用により「**地方創生推進交付金**(現:デジタル田園都市国家構想交付金)」を活用することで解消  
※SIB=民間からの外部資金調達を伴う成果連動型民間委託契約
- ・5か年計画で、**KGI**として令和5年度の医療・介護給付費抑制効果額**2.25億円**を設定
- ・5年経過時の参加者目標を5,000人とし、各年度KPIを設定して事業推進(最終4,780人)

※各年度のKPI

①新規参加者人数、②継続参加者人数、③新規参加者に占める75歳以上の割合、④新規参加者に占める運動不十分層の割合、⑤データ送信率、⑥新規参加者のうち基準歩数の達成者割合、⑦継続参加者のうち基準歩数の達成者割合

・SIBでは、山口県宇部市、岩手県遠野市、鹿児島県指宿市、埼玉県美里町と“**飛び地連携型**”のスキームで連携

・交付金が終了した令和6年度は市の単費で事業を継続



# ポイントの付与について

参加者の歩数増加などの**行動変容**につなげるために過去の事例を参考にポイントを設定

- ・**歩数**ポイント(毎日/月間)  
→毎日の歩数に対して1日あたり最大7ポイント付与  
月間の平均歩数に対して1か月最大100ポイント付与
- ・**データ送信**ポイント  
→データ送信1回につき25ポイント付与(月最大2回まで)
- ・**健診受診**ポイント  
→健診・人間ドックの受診で年間500ポイント付与

その他、**市が実施するイベント**等への参加ポイントを設定しています。



## ポイントの付与について②

貯めたポイントは1ポイント=1円として特典と交換

最大  
**4,000**  
ポイント

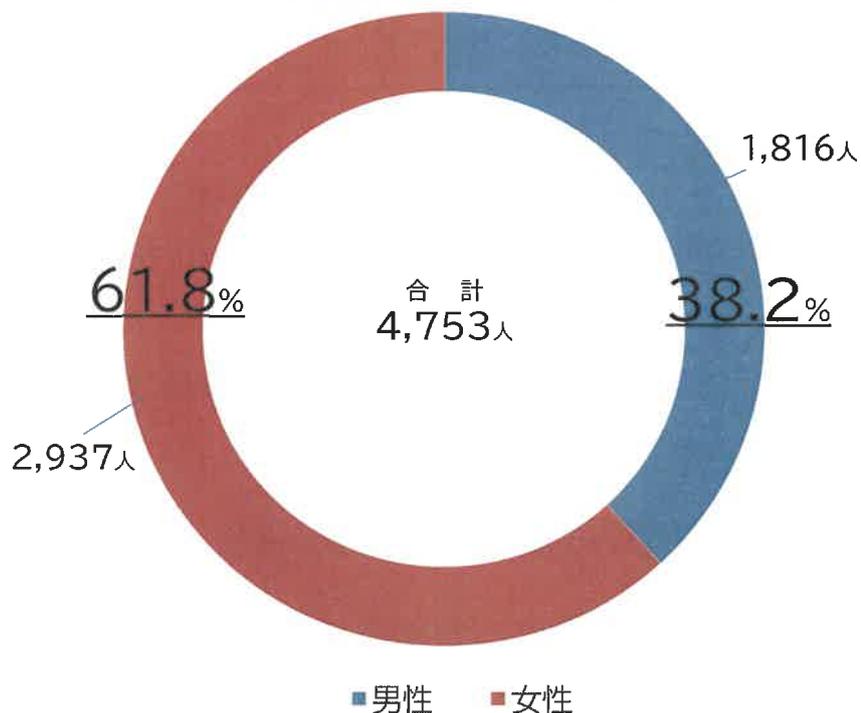


選べる特典

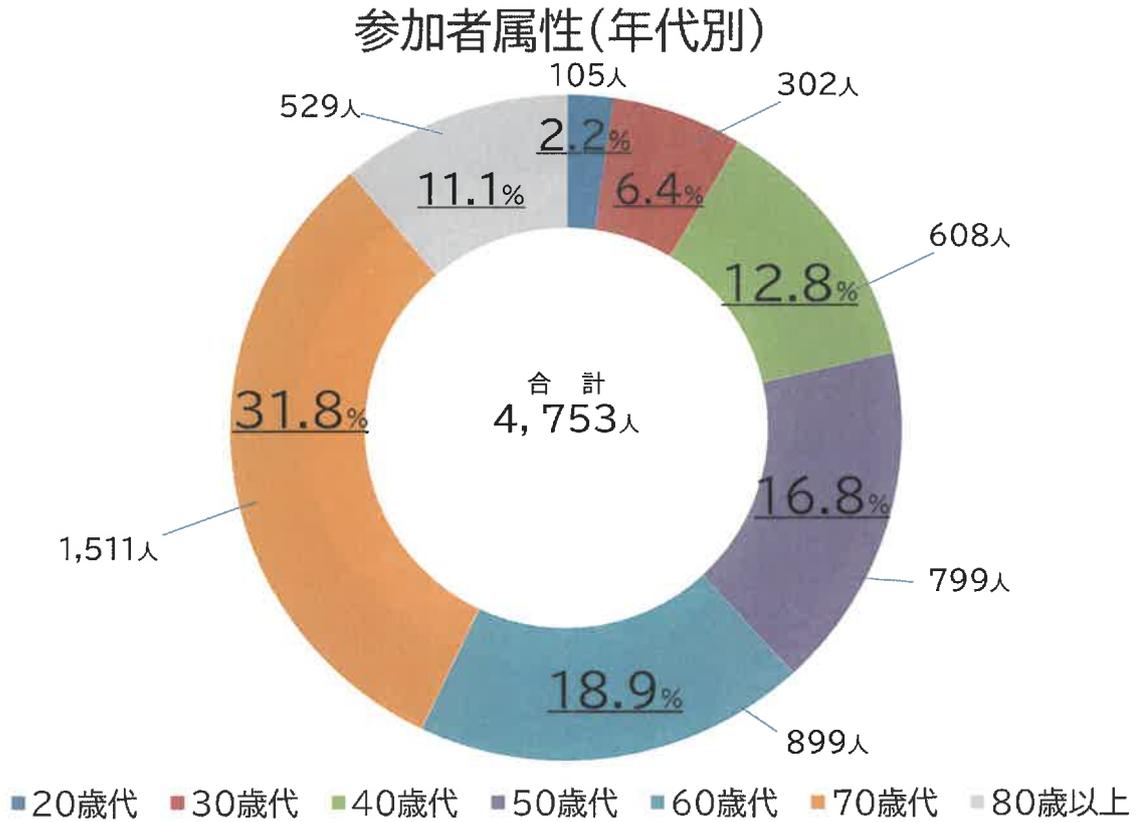
- Quoカード
- 図書カード
- 寄付

## 事業参加者の属性について①

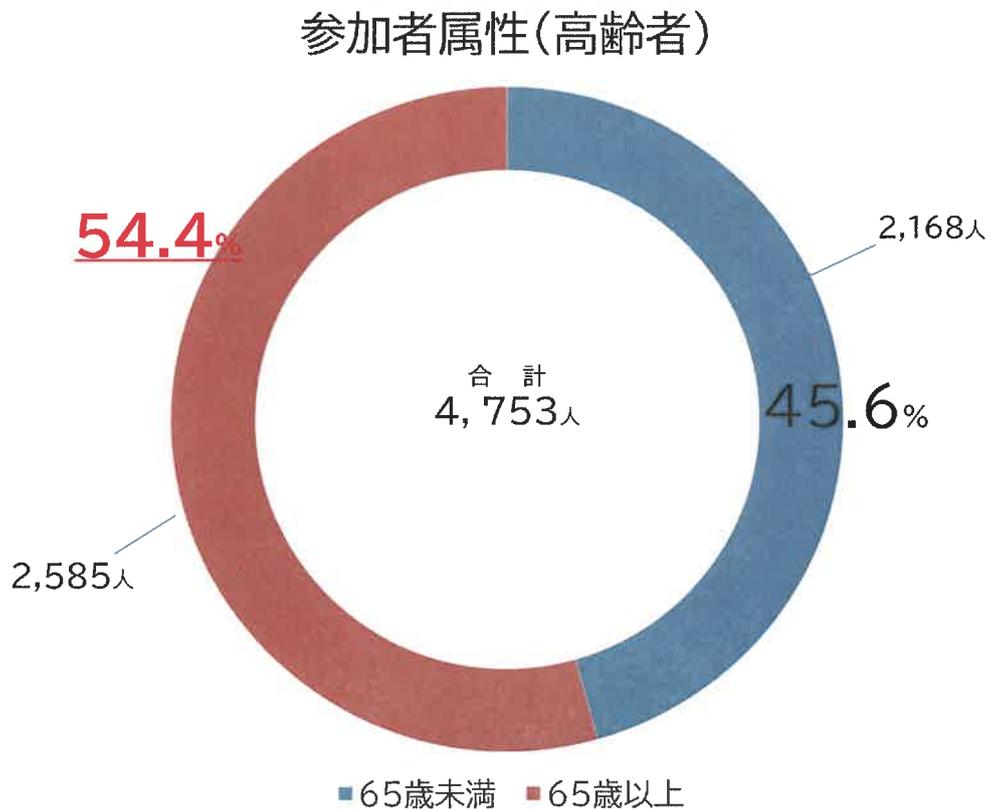
参加者属性(性別)



# 事業参加者の属性について②

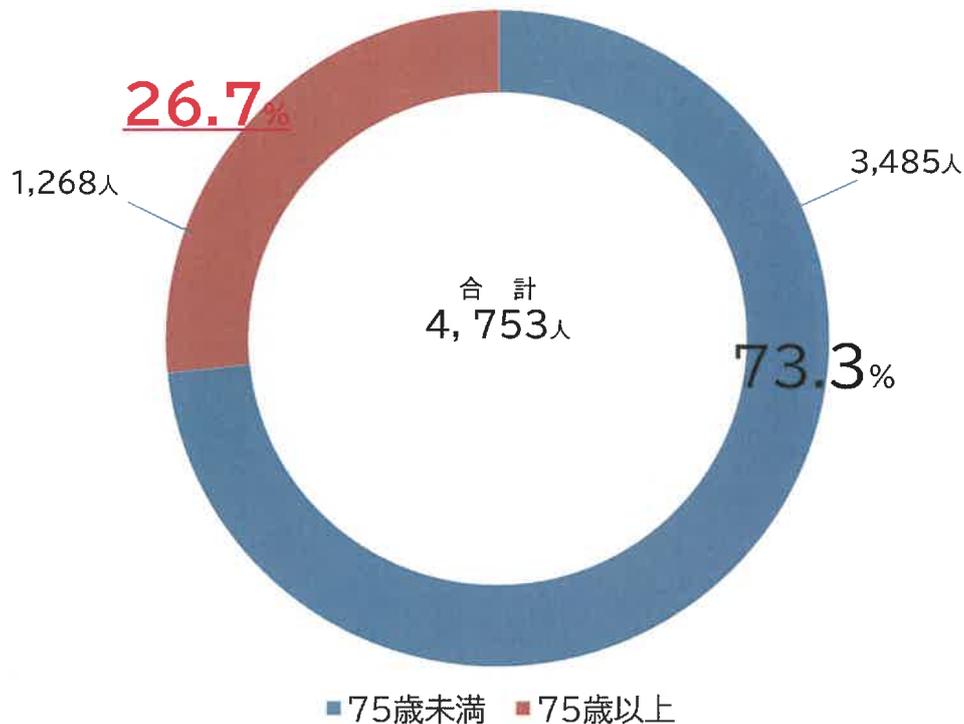


# 事業参加者の属性について③



## 事業参加者の属性について④

参加者属性(後期高齢者)



## 事業参加者の歩数の変化

- ・事業参加前後の1日あたりの参加者歩数を比較すると、事業参加3か月後には、**2,000歩程度増加**している
- ・一度増加した歩数の水準は、**3か月以後も一定維持**されている

年度	対象者数 (人)	年齢(歳) ※1	歩数推移(歩/日)				歩数変化 ※2
			参加前	1ヶ月目	2ヶ月目	3ヶ月目	
総計	4,500	59.7	5,264	6,626	7,362	7,488	2,223
2019	958	55.7	5,507	6,714	7,866	8,189	2,683
2020	960	59.9	5,093	6,689	7,227	7,351	2,258
2021	898	61.4	5,108	6,493	7,134	7,245	2,137
2022	1,064	61.2	5,369	6,511	7,190	7,231	1,862
2023	620	60.4	5,203	6,783	7,416	7,408	2,205

※ 各年度9月時点の年齢を参照  
 ※ 参加前から3ヶ月目の歩数変化量

## ② 若年層への働きかけ やわたミドルクラブ

### 「やわたミドルクラブ」について

・令和2年度から流行した「新型コロナウイルス感染症」に関して、SWCの枠組みで実施した健康被害に関する大規模アンケート調査において、本市では**40・50歳代**にも**運動不足などの健康二次被害**に関する影響が及んでいることが判明

#### 調査の概要

SWC首長研究会に加盟する6自治体で、新型コロナ感染症対策による健康二次被害(外出自粛や社会活動への参加制限によるサルコペニア・認知症等の発症)の状況把握とともに、Withコロナ及びAfterコロナにおける「新しい生活様式」での今後の健康都市づくりの方針を具体化する目的で、約17,000件のアンケート調査を実施(回答率47.3%)

※地方創生臨時交付金を活用



若年層へのアプローチにこれまで以上に注力する必要がある

しかしながら…



## 若年層への働きかけ やわたミドルクラブ

### 事業の特徴

- ・やわた未来いきいき健幸プロジェクトと並行する形で、3か月間の**スポーツクラブへの通いを中心とした健康づくり**に取り組む「やわたミドルクラブ」を令和4年度から実施
- ・参加者は、やわた未来いきいき健幸プロジェクトへの参加と共に、対象期間中にスポーツクラブでの運動実施、栄養補給や休養の取り方について学習する
- ・事業の実施にあたっては、八幡市と健幸づくりに関する連携協定を結ぶ**市内の総合型スポーツクラブ**に事業委託している
- ・定員(年間100名)を大幅に上回る応募あり
- ・事業参加終了後も**約15%がスポーツクラブ有料会員**として運動継続

### 事業実施にあたっての工夫

- ・40、50歳代が参加したくなる「**お得感**」を意識した事業設計
- ・スポーツクラブへの通いを中心とすることで、**働く世代もライフスタイルに合わせて健康づくりに参加可能**
- ・**複数の事業**に合わせて参加をしてもらう仕組みとする

スポーツクラブで

# ととのう 身体

やわたミドルクラブに入会し健康づくりに取り組みませんか？  
「やわた未来いきいき健幸プロジェクト」の一環として、40歳代・50歳代の八幡市民(1962年・1982年生まれの)が対象です。  
 対象者は、やわた未来いきいき健幸プロジェクトに参加する40歳代・50歳代の八幡市民(1962年・1982年生まれの)が対象です。

対象者：やわた未来いきいき健幸プロジェクトに参加する40歳代・50歳代の八幡市民(1962年・1982年生まれの)が対象です。

申込期間：令和4年7月1日～8月1日  
 活動期間：令和4年9月1日～11月30日  
 活動場所：グンゼスポーツクラブ八幡もしくはロイヤルスポーツクラブ八幡のいずれか1ヶ所

参加定員：各スポーツクラブ50名まで(先着順)  
 参加費用：無料  
 申込方法：市役所健康推進課または各スポーツクラブから申込

参加のメリット：  
 ・やわたミドルクラブ入会申込  
 ・3月下旬 説明会参加 申込後は運動実施  
 ・0.1～11,330円のやわたミドルクラブ活動

**40歳代・50歳代限定** やわたミドルクラブ 入会受付中

※やわた未来いきいき健幸プロジェクトの一環として、40歳代・50歳代の八幡市民(1962年・1982年生まれの)が対象です。申込は7月1日より受付開始です。

入会特典/  
 ・月割払い手数料のスポーツクラブ利用可  
 ・会員専用チャンネルにて運動・栄養・休養の限定公開  
 ・スポーツクラブインストラクターによるカウンセリング

八幡市健康推進課  
 ☎ 075-983-1116

GUNZE SPORTS CLUB 八幡  
 八幡市健康推進課

やわたミドルクラブ事業チラシ

## 健幸アンバサダー事業(情報発信の強化)

- ・市の情報発信の中心である広報紙では、興味がある記事しか読まれない
- ・結果として、**健康に関心がある人**にしか情報が行き届かず、本当に情報を届けたい人たちには情報を届けることができていない



市内のある公共施設に  
配架された市のチラシは  
「**93種類**」であった。

撮影：美濃山コミュニティセンター  
(平成30年8月30日)

出典：Sheena S. Iyenger et al, "When choice is demotivating : Can one desire too much of a good thing?", journal of Personality and Social Psychology,79(6),:995-1006,2000.

## 健幸アンバサダー事業(情報発信の強化)

全体の**約7割**とされている健康づくり無関心層はそもそも  
**自ら健康情報を得ようとしない**

7割の健康づくり  
無関心層

無関心層は  
自ら健康情報を  
取らない

ヘルスリテラシーの  
向上や行動変容に  
つながらない



健康無関心層にも情報が伝わる仕組みが必要

## 健幸アンバサダー事業(情報発信の強化)

本市が加盟するSWC協議会が、行動変容のきっかけとして有効とされる“**口コミ**”を中心とした情報伝達の仕組みをつくる

### 健幸アンバサダー事業とは…

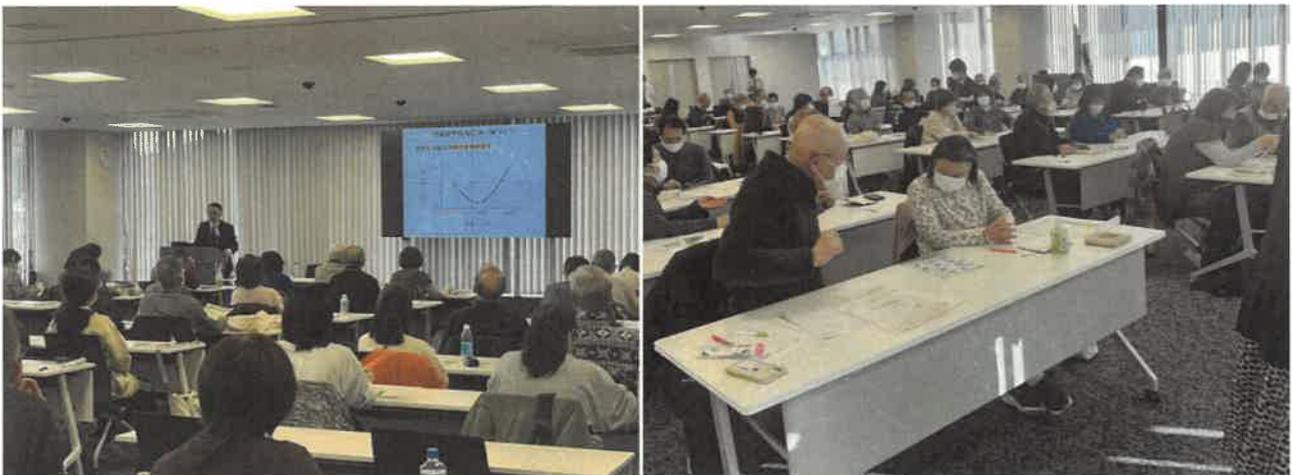
“**口コミ**”で情報を伝達する「**健幸アンバサダー(WA)**」を通じて、健康に関する総合的かつ正確な情報を伝え拡散し、健康無関心層を含む住民の行動変容を促す取組



出典:スマートウェルネスコミュニティ協議会健幸アンバサダー養成プロジェクトホームページより

## 健幸アンバサダー事業(情報発信の強化)

- ・市民(特に健康無関心層)への情報伝達を重要課題と認識し、SWC協議会と共に**口コミ**で情報を伝達する“**健幸アンバサダー(WA)**”の養成を平成29年度から開始
- ・これまでに延べ**586人**が八幡市で養成講座を受講
- ・WAには年4回、WA通信と市の健康づくり事業に関する情報を配信



健幸アンバサダー養成講座の様子(令和6年2月18日実施)

# 健幸アンバサダー事業(情報発信の強化)

こどもから父母・祖父母・地域高齢者へと健康づくりやスポーツの重要性を働きかけるという新たな切り口で、市内小学生をキッズ健幸アンバサダーとして養成

## キッズ健幸アンバサダー養成事業概要



# 健幸アンバサダー事業(情報発信の強化)

・八幡小学校、くすのき小学校、橋本小学校、有都小学校の4校の3年生(一部4年生含む)を対象に、11月に講座を実施

・講師としてオリンピック、パラリンピアンを招聘し、スポーツの楽しさや凄さを児童が体験することで、運動やスポーツの重要性を学ぶ機会づくりをおこなう

・その日に学んだことを家族等に伝えてもらうことも合わせて講義する



キッズ健幸アンバサダー養成講座の様子(令和5年11月7日、13日実施)

## 住民主体の介護予防教室の展開

行政が実施主体となる介護予防教室では、  
増え続ける高齢者をカバーしていくことは困難

**2.2万人!**

(本市65歳以上人口)

仮に**1,000人**

カバーしても

わずか**5%**



マンパワーや予算  
が足りない!!

## 住民主体の介護予防教室の展開

持続可能で多くの住民参加が可能に!  
身体的なフレイル+社会的フレイルの予防になる



市内の  
住民主体教室  
の様子です



## 住民主体の介護予防教室の展開

### 代表的事業:「元気アップ介護予防事業」

- ・市が定期的に地域で活動する「元気アップ介護予防サポーター」の養成講座を実施
- ・養成した介護予防サポーターが地域で「元気アップ体操教室」を週1回の頻度で運営
- ・教室の参加者からは1回500円の参加費を徴収し自主財源で運営
- ・令和6年3月現在、市内5会場で7教室を展開し、年間3,000名を超える方が参加



元気アップ介護予防サポーター養成講座の様子

## 住民主体の介護予防教室の展開

### 代表的事業:「ご近所筋トレ」

- ・事業名のとおり、ご近所さんで集ってもらい筋トレに励んでもらう目的で実施
- ・5人以上で週1回の頻度で集まることができる団体に、筋トレ用DVDを配布し、週に1回の筋トレに励んでもらう
- ・DVDは30分間、教室の立ち上げ3か月間は行政フォローあり
- ・令和6年3月現在、市内17教室で約200名が活動中



⑤ **民間事業者との積極的連携** 41

民間事業者が有するノウハウ等を生かして共に市民の健幸づくりを推進すべく、**健幸づくりに関する連携協定**を締結（写真以外にも事例あり）



← 市内及び市内近郊に店舗を持つ  
**フィットネス事業者5社**と締結  
(平成30年度)

**大塚製薬株式会社**と締結  
(令和2年度) →



**市の健幸づくりを共に推進** 42

協定を締結するだけで終わるのではなく、**健幸づくりの取組**を共に推進（写真以外にも事例多数あり）



← **コナミスポーツ株式会社**  
共催事業の実施(令和元年度)

**大塚製薬株式会社**  
市のウォーキングイベントで  
熱中症にかかる啓発(令和3年度)

**カーブスジャパン株式会社**  
市イベントへのブース出展(平成30年度)



# アジェンダ

1. 計画策定に至るまでの過程について
2. やわたスマートウェルネスシティ計画の概要について
3. 個々の政策について
4. 医療費・介護給付費の抑制効果分析について



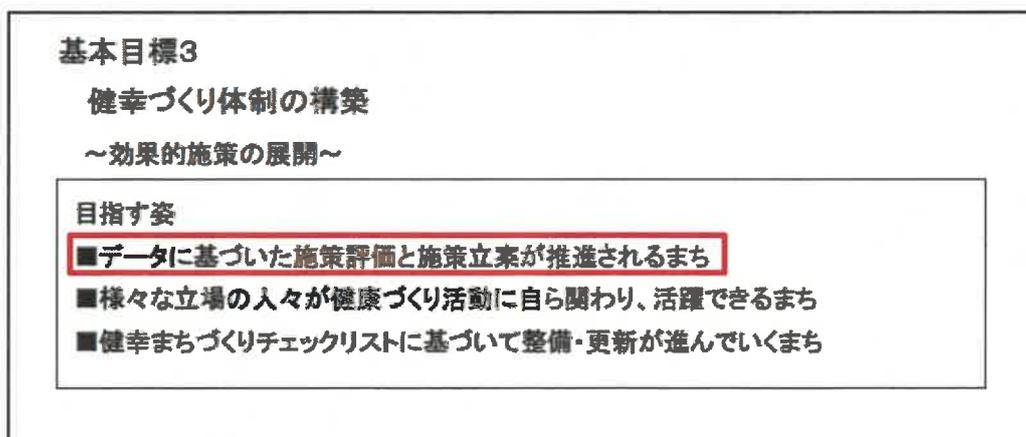
## データに基づく施策評価と施策立案

●やわたスマートウェルネスシティ計画の基本目標3「健幸づくり体制の構築」における【目指す姿】のひとつが…

「データに基づいた施策評価と施策立案が推進されるまち」

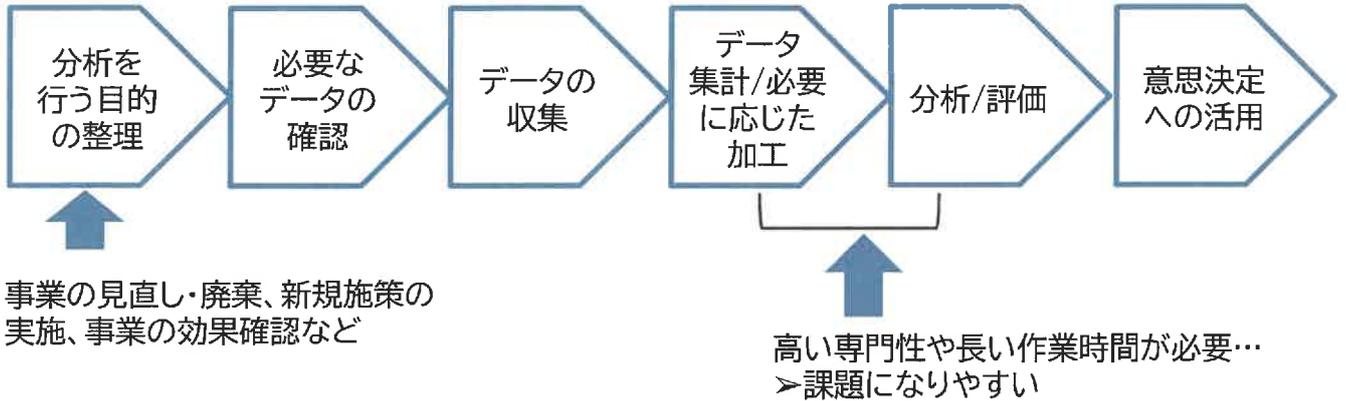
- ・先行研究などのエビデンスに基づく施策の検討
- ・施策実施のPDCAサイクルの確立

➡ 過去の慣習やアリバイづくりの取組からの脱却



# 自治体におけるデータ分析の課題

## データ分析の一般的なステップ



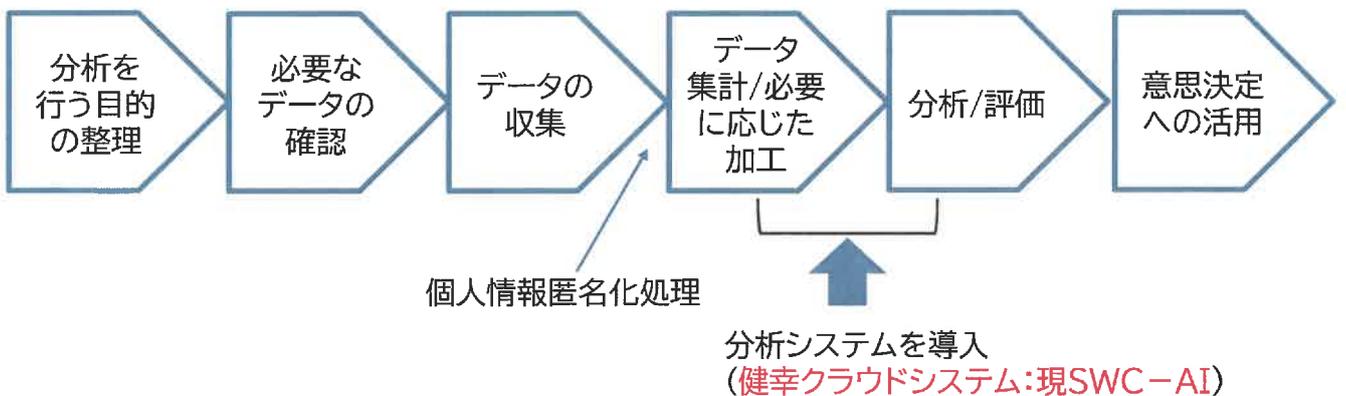
分析の質は**人事異動**や**他業務の動向**に左右されやすく、作業は**職員負担**が大きい



継続してデータを分析していくことが困難

# 自治体におけるデータ分析の課題

## データ分析の一般的なステップ



- データの集計、分析作業はもちろん大切であるが、データ分析を行う目的は、データを基に**施策立案**、**見直し**を行っていくことや、**施策評価**を実施すること
- 作業として一番負担となる箇所を外部委託することで、**データを活用することに注力**できるようにする
- 自治体内において担当者が変わったとしても同じレベルで分析が可能になる

## システムの特徴

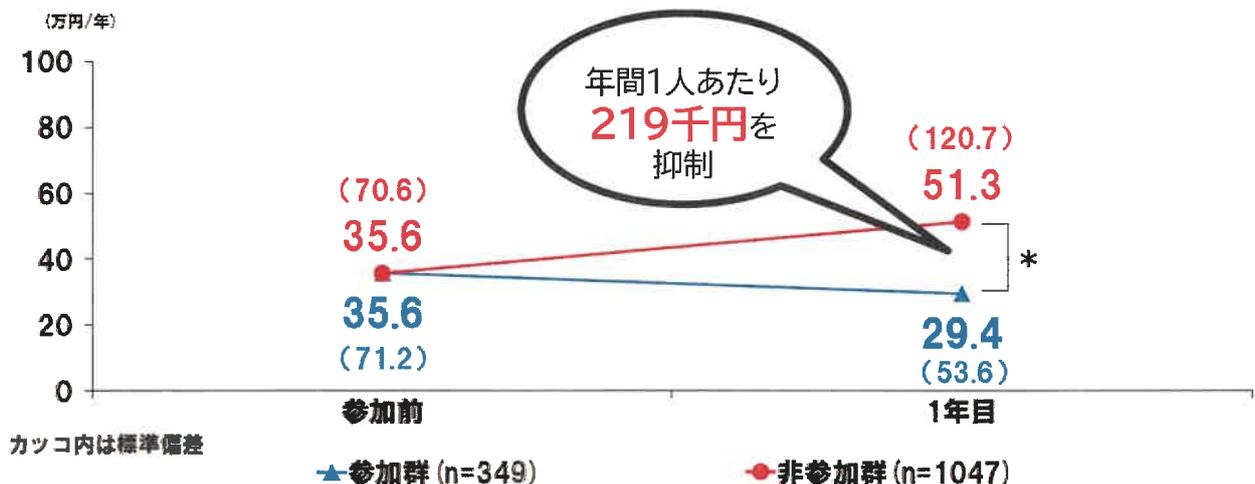
- ・国保、後期の被保険者のレセプトデータ、健診データ、介護認定情報、介護レセプトデータ、特定保健指導情報、施策参加状況、独自アンケート調査結果を登録し、これらの情報を一元化して分析  
※協会けんぽ、他社保のデータも取り込み可能であるが、データの提供方法により活用できる範囲が変わる
- ・自治体では、上記の情報を収集し、匿名化処理(専用ソフトあり)を実施してシステムに登録する
- ・システム開発元(システムの使用及び分析の実施について委託)でAIなども活用して分析を実施
- ・基本的な分析に加えて、自治体が希望する分析内容についても依頼可能
- ・独自アンケート調査の結果などから、都市環境、コミュニティ活性度、ソーシャルキャピタルなどの総合的要因を分析することもでき、まちづくり政策の効果についても評価することが可能
- ・自治体を小学校区単位に分類して分析することができ、小学校区ごとの現状及び課題の把握が可能
- ・登録データを蓄積することで、単年度でなく経年での分析や評価が可能
- ・施策参加状況を登録することで、施策参加群と非参加群の比較による施策効果分析が可能
- ・アンケート調査の結果などと合わせて分析することで、課題の原因(背景因子)の見える化にも活用



## やわた未来いきいき健幸プロジェクト

# 医療費・介護給付費の分析について

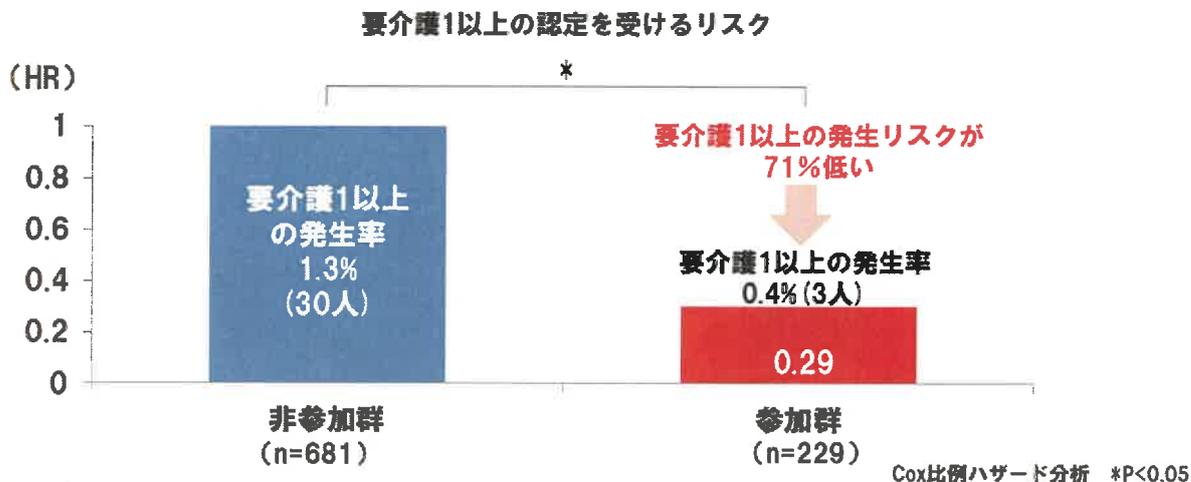
- ・令和元年度からの事業参加者において、1人あたり年間219千円の医療費・介護給付費の抑制効果を確認(国保・後期高齢など市で医療費を確認できる対象者のデータ)
- ・確認できる対象者のみで考えても事業費を大きく上回る抑制効果額  
【令和元年度事業費:約31,000千円<抑制効果額76,431千円(219千円×349人)】



出典:京都府八幡市健幸ポイント事業医療費・介護給付費抑制効果分析報告書(㈱つくばウエルネスリサーチ)から抜粋

# 医療費・介護給付費の分析について

・令和元年度および2年度からの事業参加者において、事業に参加していない集団と比較して**要介護1以上の認定を新たに受けるリスクが、70%以上軽減**されていることを**確認**(事業参加有無以外の諸条件を揃えたうえで比較を実施)



**分析対象者**

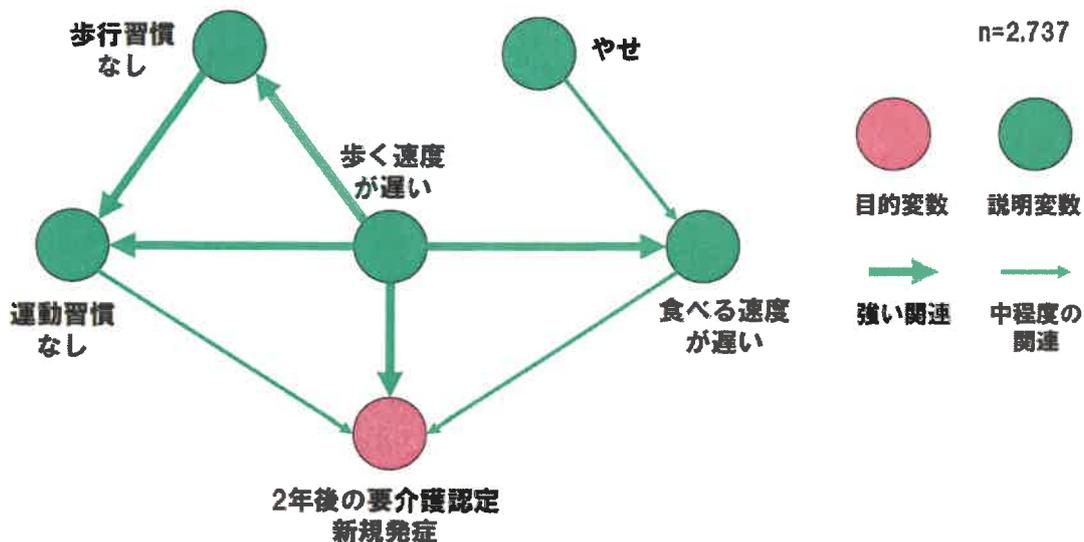
- 参加群：2019年度の参加者で、2019年度時点で健幸ポイント事業に参加している介護認定を受けていない参加者と、2020年度の参加者で同じ条件の75歳以上の高齢者合計229名。平均年齢：78.4±3.1歳 性別：男性42%・女性58%
- 非参加群：2019年度参加者の2010年度時点と2020年度参加者の2020年度時点で健幸ポイント事業に非参加で介護認定を受けていない者で年齢、性別及び開始時の医療費をマッチングさせた者681名。平均年齢：78.5±3.0歳 性別：男性42%・女性58%

出典：京都府八幡市健幸ポイント事業医療費・介護給付費抑制効果分析報告書(株)つくばウエルネスリサーチから抜粋

# 課題の要因(背景因子)の分析について

・目的変数(課題)の背景にある説明変数(背景因子)の内容や関連の大きさについて確認し、課題解決に向けた対策検討に活用する

●(例)2年後の要介護認定新規発症の原因分析

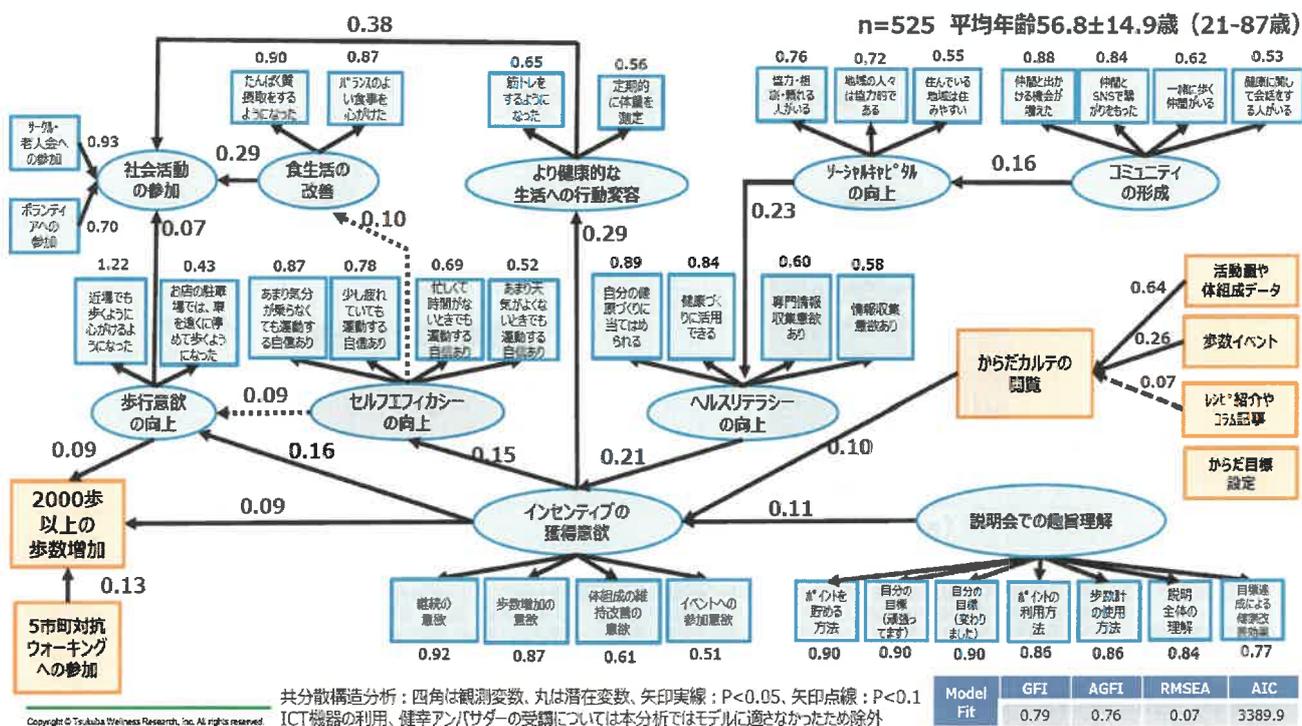


八幡市では、2年後の要介護認定新規発症は、歩行速度が遅く運動習慣や歩行習慣の無い者、食べる速度が遅くやせの者で多く発症している傾向がみられた。

出典：株式会社つくばウエルネスリサーチ分析報告資料から抜粋

# 課題の要因(背景因子)の分析について

## ●(例)事業参加者の歩数増加要因分析



共分散構造分析：四角は観測変数、丸は潜在変数、矢印実線：P<0.05、矢印点線：P<0.1  
ICT機器の利用、健康アンバサダーの受領については本分析ではモデルに適合しなかったため除外

出典：株式会社つくばウエルネスリサーチ分析報告資料から抜粋